

# 巻 頭 言

佐世保工業高等専門学校

校 長 井 上 雅 弘

佐世保工業高等専門学校は、平成16年4月に独立行政法人高等専門学校機構傘下のもと法人化いたしました。同時に第1期中期目標・中期計画をスタートし本年3月に5年間の実施年度が終了しました。

本年2月に第1期中期計画の各項目の達成状況を調査し、項目別に自己評価を行いました。176項目中、達成できた項目109、一部達成できなかった点はあるが概ね達成できた項目50、達成できなかった項目14、評価が分かれた項目2、実績が無く評価不可能な項目1という結果を得ました。できなかった項目は、地域共同テクノセンターの設置や老朽化した寮の改修など概算要求に絡むもの、教員の業績評価による予算配分やサバティカル年の導入等を除けば、新たに導入した国際交流事業、キャリア教育推進、地域連携事業などにおける活動でカバーできたと考えており、むしろ社会的・時代的要請による方針変更と捉えています。

ここに、外部評価委員会を開催し、法人化後5年間における本校の教育研究活動を報告して評価して戴きました。この報告書は、外部評価委員会に報告した資料と、評価委員会における質疑応答の内容と、評価委員の意見・提言をまとめたものです。

大変お忙しい中、本校の第1期中期計画実施期間中の活動の内容を熱心に聞いていただき貴重なご意見を戴いた、末岡淳男委員長をはじめ評価委員の方々に深く感謝の意を表しますとともに、ご意見を第2期中期計画における活動に反映していきたいと思っております。

## 佐世保工業高等専門学校における評価体制

高等教育機関が、その教育研究活動に対して評価を受けることは、社会的義務であると同時に責任でもあり、佐世保工業高等専門学校においても学則第1条の『目的』に続いて第1条の2に『評価』を配し、「本校は、教育研究水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するために、本校の教育研究活動等について点検・評価を行い、その結果を公表するものとする」と謳っています。上記の点検・評価を行うために「自己点検・評価委員会」は、点検評価項目の設定、実施及び実施結果の報告等について、常置の「教育システム点検・改善委員会」に諮問するほか、下表に掲げる各種の評価に対応して「ワーキンググループ」を設置し準備を行って受審します。運営委員会はその結果を受けて改善すべき点を学校の教育研究活動に反映させています。

評価の種類	評価の目的	評価施行団体	対応ワーキンググループ	受審年度
外部評価	社会の目から見た学校活動の評価	外部評価委員会	外部評価対応WG	平成 15 年度 平成 20 年度
機関別認証評価	高等専門学校としての活動の適正評価	大学評価・学位授与機構	機関別認証評価対応WG	平成 18 年度
専攻科教育の実施状況調査	専攻科に対する学士レベルの教育評価	大学評価・学位授与機構	専攻科委員会	平成 14 年度 平成 19 年度
JABEE	国際的技術者教育の適正評価	日本技術者教育認定機構	JABEE 対応WG	平成 16 年度 平成 21 年度
特定事業評価	現代 GP 等の特定の事業の評価	事業別評価委員会	特定事業担当者	平成 17 年度 より毎年

上表に示すように、外部評価委員会による評価は、社会の目から見た学校の諸活動の評価と位置付けており、社会的義務として重く受け止めています。

# 目 次

## 巻頭言

### I 外部評価委員会

1. 外部評価の概要	1
2. 外部評価委員名簿	2
3. 外部評価委員会開催日程	4
4. 本校出席者名簿	5
5. 議事	
(1)開会挨拶	6
(2)委員長の選出	7
(3)学校側からの概要説明	8
(4)質疑応答及び提言	9
(5)講評	22
(6)閉会挨拶	30

### II 評価結果報告書

1. 評価点	31
2. 意見・提言及び本校の回答	32

III 外部評価委員会資料	57
---------------	----



# I 外部評価委員会

## 1. 外部評価の概要

### (1) 目的

佐世保工業高等専門学校における教育研究活動等の状況について、外部の有識者による意見、提言を受け、本校の教育研究体制等の改善を目指すため、外部評価委員会を開催するものである。

### (2) 外部評価の実施方法

外部評価は、各種資料及び口頭説明に基づき評価を受ける。

#### ① 実地調査(外部評価委員会)

本校において、学内関係者からの口頭説明ののち、質疑応答及び意見交換の上、外部評価委員から講評を受ける。

#### ② 外部評価委員による評価結果報告書の作成

上記の調査に基づき、外部評価終了後、外部評価委員に評価結果についての報告書を作成していただく。

### (3) 評価項目

各概要説明内容、全7項目について評価を受ける。

### (4) 外部評価報告書の作成

外部評価委員会の結果及び外部評価委員から提出していただく評価結果をとりまとめ、「外部評価報告書」を作成し、公表する。

### (5) 外部評価委員会委員

別紙のとおり(9名)

### (6) 外部評価委員会開催日時

平成21年3月17日(火) 13:30-16:30

### (7) 開催場所

佐世保工業高等専門学校 一般教科棟1階 多目的教室

## 2. 外部評価委員名簿

区 分	職 名	氏 名
大学、高等専門学校等 高等教育機関の教員等 及び経験者	九州大学工学部長 (九州大学大学院工学研究院長 工学府長)	◎末岡 淳男
	長崎県立大学長	池田 高良
本校の所在する地域の 教育関係者	長崎県立佐世保工業高等学校長	松山 秀則
地方自治体の関係者	長崎県県北振興局長	高尾 潤
地域産業界の関係者 (地域産業支援組織)	財団法人長崎県産業振興財団 佐世保事業所長	永田 安夫
	佐世保重工業株式会社 人事部長	廣津 忠
	株式会社亀山電機 代表取締役 社長	北口 功幸
報道機関の有識者	株式会社長崎新聞社 佐世保支社長	才木 邦夫
本校卒業生の代表者	佐世保工業高等専門学校同窓会会長	朝永 憲法

(外部評価実施要項順 敬称省略)

注) ◎印は委員長



末岡委員長



左から永田、高尾、松山、池田各委員



左から北口、才木、朝永、廣津各委員





### 3. 外部評価委員会日程

1. 日 時： 平成21年3月17日（火） 13:30～16:30

2. 場 所： 佐世保工業高等専門学校 一般教科棟1階 多目的教室

#### 次 第

時 刻	摘 要	備 考
13:30～	外部評価委員会開会 ○校長挨拶（趣旨説明） ○外部評価委員紹介 ○学校側出席者紹介 ○配布資料確認	
13:40～	○議事 1. 委員長の選出 2. 概要説明 (1)佐世保高専の概要について (2)学生（本科）の教育について (3)専攻科の教育について (4)学生生活について (5)学生の寮生活について (6)地域連携及び産学官交流について (7)広報活動について	説明者：校長 説明者：教務主事 説明者：専攻科長 説明者：学生主事 説明者：寮務主事 説明者：総合技術教育研究センター長 説明者：広報委員長
15:20～	休憩	
15:30～	3. 質疑応答及び提言	
16:00～	4. 外部評価委員による講評	
16:25～	閉会	
16:30	校長挨拶 散会	

#### 4. 本校出席者名簿

所 属 等	氏 名
校長	井上 雅弘
教務主事（自己点検・評価委員長〔校長指名〕）	須田 義昭
学生主事（自己点検・評価委員）	牧野 一成
寮務主事（〃）	福田 孝之
専攻科長（〃）	武富 敬
機械工学科長（自己点検・評価委員〔校長指名〕）	原 要一郎
電気電子工学科長（〃）	長嶋 豊
電子制御工学科（学科長代理）（〃）	重松 利信
物質工学科長（〃）	下野 次男
一般科目長（〃）	田崎 弘章
総合技術教育研究センター長（〃）	久留須 誠
広報委員長（〃）	古川 徹
情報処理センター長	
図書館長	松尾 秀樹
学生相談室長	堂平 良一
キャリア支援室長	稲永 善数
JABEE対応委員	
事務部長（自己点検・評価委員〔校長指名〕）	川崎 信之
総務課長（自己点検・評価委員）	松永 義成
学生課長（〃）	三原 和宏



## 5. 議事

### (1)開会挨拶

[井上校長]

佐世保高専の井上でございます。本日はお忙しい中、外部評価委員を引き受けていただき、また、本校の評価委員会にご出席いただき、ありがとうございました。

最初に、この外部評価につきまして趣旨をご説明いたしたいと思えます。私どもかなりたくさんの評価を受けております。これは、この十数年来、いろいろな組織を評価をしなければいけないという話がございます、「評価文化の到来」などと言っておりますが、私どももその例にもれません。

まず、「高専教育が適正に行われているかどうか」を評価する機関別認証評価を大学評価・学位授与機構から受けております。平成 14 年度の学校教育法改正にしたがって認証評価が始まりまして、高専につきましては平成 16 年度より施行。平成 18 年度に私どもの審査は終わっております。

2 番目としましては、「専攻科教育の実施状況に関する調査」。これも大学評価・学位授与機構が実施するものでございまして、専攻科に進みますと学士を出すことができますので、学士レベルの教育を行っているかどうか、そのカリキュラムとそれから教員の資格があるかどうかということを受審することになっております。私どもは平成 9 年に専攻科を作りましたので、その 5 年後に審査を、さらに 5 年後ということで平成 14 年度と平成 19 年度に審査が済んでおります。

それからもうひとつ、「技術者教育認証」これは JABEE ということで御存じのかたも多いと思えますけれども国際レベルの技術者教育がなされているかどうか。JABEE というのは日本技術者教育機構でございますけれども、国際的な ABEC という組織に加入しております、そこで認められる教育がなされているかどうかということでございます。私ども平成 16 年度に受審いたしまして、5 年間の認証をいただきましたけれども、これが今年で切れますので、平成 21 年度受審する予定で準備を進めております。

そういうことで、高専教育として適正か、学士相当の学生を育成しているか、それから国際レベルの技術者教育を行っているかということで評価を受けています。そのほかに、自主的といいますか、教員の表彰これは FD の一環として行っておりまして、先生方の自己評価、先生同士の相互評価、学生による授業評価ということを含めまして、顕彰をやっております。これを利用して国立高専を統合する高専機構の顕彰制度に応募し、平成 17 年度、19 年度は、うちの若い先生方が高専機構の奨励賞をいただいておりますし、今年度は理事長賞をいただくということになっております。

あと、独立行政法人としての高専機構が毎年受けなければいけない事業年度評価がございまして、このための資料を提出する。これは、私たちが直接評価を受けることではございません。ただ、そこに出す資料が高専機構内で評価されませんと次の予算にも影響しか

ねないということで、これにもかなり神経を使っております。

それから、最も私どもが重要視しているのが外部評価でございます。これは、いわゆる、社会の目から見て「佐世保高専はどうか」ということですね。そういう趣旨でございます。

この「社会の目から見てどうだ」ということに関しまして、評価という話が始まった頃から平成5年の3月に「佐世保高専の現状と課題——自己点検と評価に向けて」という評価書を3代目の青木校長のときに出しております。それから、前校長の根本校長のときに「グローバルスタンダード時代における個性的技術者教育」という自己点検・評価報告書を出しております。しかし、正式な外部評価委員会は、平成15年に出しました自己点検・評価報告書に従って、16年3月に開催されたのが最初です。これも、前校長の根本校長のときにやられております。

平成16年の4月に独立行政法人国立高等専門学校傘下に入りまして、第一期中期目標・中期計画をたてたわけでございます。その実施期間が平成16年から20年であり、丁度本年度で終わりになります。そこで、法人化してからのこの5年間を一度、社会の目から診ていただきましょうということで、今日、外部評価委員会をお願いしたわけでございます。

本来ならば、もっと膨大な資料をお送りすべきだったかもしれませんが、委員の先生方は、非常にお忙しい中を資料ばかりたくさんお送りしても…と思ひまして、今日は、担当のいろいろな報告の後、自由に意見をいただければと思ひます。

佐世保高専を育てるといふ暖かい目でもって、御意見をいただければと思ひております。ひとつよろしくお願ひします。

## (2) 委員長の選出

委員の互選により、末岡委員（九州大学工学部長）を委員長に選出した。



### (3)学校側からの概要説明

質疑応答に先立ち、本校関係者からスライドを用いて、佐世保高専の概要について次のように説明があった。

#### ①佐世保高専の概要

井上校長より、高専制度及び高専教育の特徴、佐世保高専の沿革・組織、教育理念、および中期目標・中期計画等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P.57-P.61)

#### ②学生(本科)の教育について

須田教務主事より、本科の教育目標、入学者選抜、教育課程、卒業後の進路等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P. 62-P. 68)

#### ③専攻科の教育について

武富専攻科長より、専攻科の中期目標、教育体制、教育課程、中期目標に対する主な改善事項等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P.69-P.71)

#### ④学生生活について

牧野学生主事より、学生生活に関する指導・支援体制、学校行事、学生会活動、学生相談、奨学支援等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P.72-P.75)

#### ⑤学生の寮生活について

福田寮務主事より、学寮の役割、概要、入寮状況、寮生会活動、施設・設備及び改修状況、安全対策等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P.76-P.81)

#### ⑥地域連携及び産学官交流について

久留須総合技術教育研究センター長より、設置の基本方針、組織、連携・協力状況、課題等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P.82-P.84)

#### ⑦広報活動について

古川広報委員長より、自己評価、ホームページの改善状況、広報印刷物・広報ビデオ、イベント等について説明があった。(Ⅲ外部評価委員会資料 P.85-P.86)

#### (4)質疑応答及び提言

では、これから、外部評価委員によりまして、いろいろな自己評価・点検報告書などの説明に基づきまして、いろいろな議論をしていただこうと思っております。

全体的にお聞きしても難しいと思いますので、説明がありました項目ごとの個別に区切って議論を進めて、後で講評をお願いするということにしたいと思います。

まず、第一に「学生（本科）の教育について」の内容につきまして、質問等なども含めながら議論を進めていきます。外部評価委員の方、よろしく申し上げます。

[末岡委員長]

では、まず私から。

退学者と留年者が、進学率的なところで、高専の中で一番優れているというところを見せていただきました。退学者と留年者が少ないということなので、あえて言うことは無いのですが、確かめたいのは、説明された時に、1年生の時に「創造実験・創作実習」を行っており、これがうまくいっていると自負されておられましたが、その根拠を説明して頂けないでしょうか。

[須田教務主事]

留年者・退学者が少ない理由と創造実験・創作実習を行っていることに関係あるかどうかを説明いたします。

創作実習というものを下級生から取り入れておりまして、各学科の専門内容に対して入学して間もない時期から各所属学科に興味を持つようなカリキュラムをとっております。例えば、電気工学科であればPCを組立てたりなどといった、基本的でその学科に興味を持ちやすく関心を持てるものということでやっております。

そのことで、留年者・退学者について効果があるかどうかについて数値があるわけではありませんが、学生へのきめ細かな教育の一環ということでもあります。きめ細かな教育の一環としまして、本校が他高専に比べて、一番大きく違うのは、年4回の試験の際に、学生が理解できるまで追試験を毎回行っております。かなり教員の先生方には負担があると思いますが、これを毎回行っており、そこでクリアしないと理解しないとダメということを行っているようなきめ細かな教育を行っていることが、大きく関係していると考えます。

このきめ細かな教育と、委員が言われた、1年次における専門に興味を持たせるということが、留年者・退学者の減少にどれほどつながったかの数値は、把握しておりませんが、学科に対する興味を持たせることが減少の一因になったのではないかと考えております。

[委員]

まず、佐世保高専の概要というのがありますよね。そこで述べられた、学生数ですが、1年次の4学科が173名。2年次で162名。その差が、11名あります。他の資料(P.65)の退学の数と同じになりますか？

[須田教務主事]

その2つ数値は異なりまして、退学者・留年者というのは、1年から5年を合わせた数であります。学生数の1年173名と2年162名の差というのは、各学科の入学定員がございまして、43から45名ほどの幅をもって合格者を出しておりますので、学生数の差として出てきています。

学年に関して、1年から2年への進級時に留年する学生は、だいたい、1名いるかいないかぐらいになっております。

また、やはり3年から4年に上がるときに、一番方向転換することが多くなっております。

学年によって定員が異なっておりまして、今の2年が受検したときは、辞退者もいたことから、40名ほどの人数が入学しております。

したがって、学生数の173名と162名の差が、そのまま退学者・留年者を表している資料ということではありません。

[委員]

それと、もう1ついいでしょうか。

各学年160名程度の定員ですが、その中の出身者の、例えば、長崎県出身者が何名だとか、佐世保が何名だとか、他の地域が何名かなどのデータがあれば教えていただきたい。

[須田教務主事]

手元の資料にはございませんが、だいたい7割ほどが長崎県内出身者になっております。

あとの3割弱が佐賀県出身者で、若干名がその他の地域となっております。これは、長崎県・佐賀県内に高専が1つしかありませんので、ほぼ、長崎県と佐賀県内から来ている結果となっております。他の地域として、福岡、大阪などのからも若干名来ております。

それと、長崎県内でも佐世保市が一番多くなっております。比率的には、佐世保市が4割ほどです。

[末岡委員長]

かなり、地域性があるということなんですね。

今日の資料では、各学科別ではなくて、全体としてのデータとなっておりますので、特徴が見えにくいというのがあるかもしれません。そのことを含んで、質問されたように思います。

[委員]

昭和 61 年に、厳しくご指導いただきまして佐世保高専を卒業いたしました私ですけれど、そのときの恨み節を言うつもりはまったくありません。あくまでも外部評価委員として意見を述べますので、聞いていただければと思っております。

さきほど、留年者数・退学者数がありまして、率がよいというお話がありましたけれど、私がいたところに比べますと、ものすごくよいという気がしています。

逆に、留年者数・退学者数が少ないというのは、基準が甘くなっているのではないのかと心配をしていますが、何%がよいという判断はつきませんが、資料では、留年者の数が 8 名しかいないというのが、率直に言うと、ゲタが高くなっているのではないかと感じてしまうのですが、いかがでしょうか。

[井上校長]

私の方から、少しお答えいたします。

教員側からすると「ゲタは履かせていません」となります。

昔は、高等教育機関としての誇りというものが非常に強くて「高等教育機関なのだから、自分で勉強するものだ。ついてくることのできる者だけが、ついてくればよい」という教育だったと思います。

最近では、大学を含めて大衆化・ユニバーサル化しておりまして、入ってきた者をいかに生かすかということが重要となっておりますので、教育方法はずいぶん変わっております。

私が会議に出て状況を聞いている限りには、非常に厳しくしているように思います。

[須田教務主事]

JABEE がありますので、そういった意味で、evidence つまり証拠書類として残しておかなければいけないといったことがありますので、試験実施状況については前よりも厳しくなっております。

年 4 回の試験について、問題・解答・模範解答等は保存されていますし、各教員がゲタ



を履かせているのが判れば、大変なことになりますので、前よりも厳しくなっております。

試験の実施に関して厳しくなっておりますが、毎回追試を行うなどのきめ細かい指導、校長先生が言われたように、以前に比べて2倍、3倍の仕事を教員が行っていることから、学生に勉強させているということが言えると思います。

[末岡委員長]

サービスがよくなったということですね。

[委員]

我々が卒業したころは、即戦力となる中核技術者の育成ということが高専設立の目的で、「お前たちは、学校を卒業したらすぐ現場に出てやっていかなければならない」ということを叩きこまれながら、卒業していきまされたけれども、近頃、ものづくりの現場から離れる若者がだんだん増えてきているということと、ものづくりそのものの評価が以前と随分変わってきていると感じております。

そのような状況で、学校として、どのようなところを注意しているのか、学生に教育されているのか、もし、ありましたら、お教え願います。

[井上校長]

就職する割合で、ものづくりの道に進んでいる者とそうでない者について、追跡調査をしたデータがありませんので、今後、調査をすべきだと思いますけれども、私ども佐世保高専としては、ものづくりに重点を置いた教育、実験・実習の教育に力を入れていきます。

ただ、ミスマッチの問題もありますので、最優先に私が考えるのは、学生は自分に適した職業を選ぶべきであるということです。

昔は、「職業教育は専門教育であり、高専は技術者を育てる教育機関なので、残らず技術者にしよう。」という考えがありましたけれど、今は、専門のプロフェッショナル教育から、総合的なキャリア教育という考え方に変わり、学生一人一人が卒業した時に社会に役立つような人間にするという教育を行っています。もし、合わなければものづくり以外の道に進んでもしょうがないということです。

特に、私が最近感じますのは、これは、感じて申し上げたいいけないのかもしれませんが、化学系のエンジニアというのは、高専レベルで卒業しても、即、大手の企業に役立つまでにはいかないようです。そうすると、進学するしかないわけです。中途半端になってしまう。そのようなことで、本学で卒業する学生は、化学から離れた職業に就くということが少し増えてきている感じがします。

これは、化学系の先生方が違うと言われるかもしれませんが、化学系の先生方、いかがでしょうか。

[下野物質工学科長]

高専の役割は、製造現場での中核技術者を育成するということですが、化学系学科である物質工学科においても、そのあたりの基本的な方針は変わっておらず、多くの卒業生は依然として化学系企業の製造現場・生産現場の中核技術者として働いているのが現状です。

しかし、さきほど校長先生が言われましたように、やはり、技術が向上しておりますので、高専に入っているいろいろ勉強してみて、更に高度なことについて勉強を続けるために、大学に編入学したいという学生が増えてきていると思います。

結果として、物質工学科の場合には、就職希望者と進学希望者は半々ぐらいとなっております。

[委員]

先ほどの説明の就職数のところ (P.68) で質問したいのですが、よろしいでしょうか  
求人数はこれだけありますが、就職したい学生が何名いるのかがわかりづらかったのと、地元就職率が高いと説明がありましたが、実際には、就職する学生は数人程度で、地元には全く就職していないような気がして、問題ではないかなと認識しているのですが、そのような感覚が若干異なるような気がしています。この点については、どのように考えられているのかということと、問題があるのは、先ほどお話がありました、佐世保高専の場合、佐賀を含めた地域での高専ですので、地元というのは、佐賀県を含めたうえのことだったのか、そのあたりも含めてご回答いただきたいと思います。

[須田教務主事]

だいたい、学科によってばらつきがありますが、物質工学科以外は各学科 40 名程度の 5 年生で 6 割が就職、物質工学科では 4 割が就職となっております。学校全体では、だいたい 5 割の就職となっております。

地元就職、これには県知事、地元の県や企業からも非常に少ないと指摘されておりますことは、事実でございます。10%から 20%を超えていないということで、もともと、本校が設立された目的のなかには、地元には優秀な技術者を残すということがあります。

しかし、私は、九州全体を”地元”と考えて評価をしております。これは、中学生への学校説明会から引用しておりますが、九州内で就職できることを PR しております。

確かに、長崎県、佐賀県も含めて就職者が少ないのは事実であります。

さきほど、長崎県との連携推進事業を説明しましたが、地元には 20%、30%学生を残そうということで、今回、県内の工業高校の校長先生と本校の教務主事室、各ワーキンググループで検討しまして、推薦制度を設けました。その学生たちが地元に残った場合には、県が 50%奨学金を援助するというので、今回、この推薦制度を利用した 4 名の学生は、本

校を5年で卒業した後、県内企業に就職したい、奨学金を受けるとの面接時の話ですので、このような形で増えていくのではないかと考えており、このような取組みから地元への就職を増やしていく試みを検討・協力しているところであります。

#### [委員]

その件で、県内の求人数のパーセントにもよることかと思いますが、例えば、平成19年度だと720社から1712名の求人数が出ていますが、このうち、県内はどれくらいかということはおわかりいただけますでしょうか。このことも、県内に就職できるかどうか変わってくると思います。県内求人がそもそも少なければ、就職する人も少ないことも考えられますがいかがでしょうか。

#### [須田教務主事]

企業数について、厳密な数値がわかりませんが、県内からもかなりの数の求人が来ております。しかし、申し訳ございませんが、いろいろな待遇などで大手企業に行きたいと思う学生が多いのが事実だと思います。

辻産業さんから「ぜひ、欲しい」として求人がありますし、最近、大島造船さんには毎年1名ずつほど就職しています。あと、推薦制度の協定には入っておりませんが、三菱重工さんにも複数名が就職しております。

推薦制度の協定は、地元の”中小”企業と協定を結んでおりますので、地元でも大手企業ならば奨学金は出さないと県の方が言われております。地元の中小企業に就職した者を優先的に援助するというものです。この内容を理解した上で、工業高校のトップクラスの生徒が、推薦制度を利用して高専に来ておりますので、あと、2年ほどは増加していくのではないかと期待しております。

#### [末岡委員長]

スライド(P.68)を見ますと、大手の企業ばかりですね。

地場産業などが、就職先の例として挙げられないということが、ちょっと寂しいかなという気がします。

ちょっと時間が押していますので、次に進みたいと思います。

次は、専攻科の教育についてです。

何か質問等ございませんでしょうか。

[委員]

今、経済産業省あたりは、特に IT 関係で、天才を見つけようというようなことを奨励していますよね。結局、IT 関係は起業もやりやすいのではないかと県の方でも考えていますが、飛び級制度というものは、高専ではありませんか。

[須田教務主事]

飛び級制度というものは、残念ながら高専にはありません。

[委員]

機械とかものづくりの方は、なかなか見つけ出しにくいでしょうけど、ITの方は、東京にいるいないにかかわらず、地方にいても起業しやすいのではないかと、条件はイーブンだというふうに考えれば、頭抜けた学生が出てきて、起業して欲しいなというのが希望としてありますが、いかがでしょうか。

[武富専攻科長]

まだ、専攻科が出来て12年目ということで、その成果が出てないといった部分は有りませぬけれど、私の所属する本科の電子制御工学科ということでお答すれば、若くても会社の社長になっているなど、IT系でそのような卒業生もいます。

ただ、会社経営とIT開発能力とは別の能力だと考えられますので、IT系の能力が抜群でも、すぐに起業できるとは限らないと考えております。

[末岡委員長]

そこは、難しいところですよ。

研究ができて、商売はできないということもありますので。それに、高専ですから大学との結びつきというものもありますし、飛び級制度というのは難しい制度になると思うんです。どこに入れられるかということも、憲法で決まっておりますし、出口が無いということになりかねないかもしれません。

私の方からも一つ。

技術士の一次試験合格というものが免除されるということで、かなり合格者が増えたと説明がありました。総合試験とかそういうものもございますよね。学生さんにとって、技術士の一次合格というものが、将来にどのように結びついていっているのでしょうか。

[武富専攻科長]

専攻科を出れば、技術士一次試験と同等なのです。

[末岡委員長]

そうです。JABEE を受けてらっしゃいますからね。

[武富専攻科長]

JABEE に対応しております、複合型ものづくり工学の質を保証する意味合いで実施します「総合試験」は、6回に分けて行われるようなかなりハードな試験です。そのため、それと同等な外部試験である技術士1次試験の合否で、「総合試験」を免除する制度にしましたら、技術士1次試験の受験者も合格者も増えたということになりました。

[末岡委員長]

逆、ですか。

[井上校長]

もう一つよろしいでしょうか。

JABEE の教育課程を修了しますと、これは、融合分野で認定されていますので、一次試験の免除は、応用理学部門という、3専攻に縛られない技術部門での資格が取れるということです。しかし、技術士一次試験の専門科目で、たとえば、電気電子工学科だったら電気、機械工学科だったら機械というような試験に合格すれば、同等レベルとして、対応する専攻科の総合試験を免除をできることとなります。そこで、学生は、総合試験のための時間を節約して、卒業研究などにしっかりと時間を使うことができる。そういう、意味合いがございます。

[末岡委員長]

なるほど。そういうことですか。

[委員]

ちょっと、専門外のところがありまして、つい、大学と比較をしてしまいますけれども、感想から申し上げますと、非常にまじめな学生が丁寧に育てられているなど強く感じます。先生方も大変、御苦労されておられるように感じます。

ただ、大学の場合ですと、途中退学する学生もかなりいますし、卒業時にまだ自分の進む方向が見えていない学生もおります。こういうことと比較してみると、どこがいいのかはまだわかりませんが、違いの一つとして、大学の場合は、ほとんど全寮制ではありませんで、アパートに住んでアルバイトをしていると思います。

アルバイトというのは、可能でしょうか。もし、可能なら、どれぐらいの割合でしょうか。

私は、社会体験という意味でアルバイトというものは、社会性を育てるという良い面が

あると思っておりますが、生活指導等と係わると思います。御意見を伺わせてください。

[牧野学生主事]

アルバイトについて、お答えします。

本校の場合、1年生の15歳から専攻科となると22歳までいるわけですが、1年から3年までの、いわゆる高校生世代に関しては、高校に準じるような形でアルバイトに関して原則禁止としています。ただし、夏休み及び春休み等の長期休暇の間に関して、健全なものであれば、学校が認めるということにしておりますので、一部、3年生まででも、長期の休みでアルバイトをしているものがおります。

4年、5年に関しては、学校側できちんと把握していません。だいたい何名ほどがアルバイトをしているか、十分把握しているわけではありませんが、たとえば、ハウステンボスに行くと、うちの学生を見かけたりすることもあります。

クラブ活動をやっていない学生は少ないですが、4、5年生については、アルバイトをやっている学生も多数います。

学習に支障が出るものに関しては、認めません。深夜にあたる、とかですね。

[末岡委員長]

ひとつひとつ、項目ごとに分けて話をしようとしていましたが、バラバラになってきましたので、これ以降は、どういうジャンルでも構いませんので、御意見をお願いします。

[福田寮務主事]

先ほどのアルバイトの件に関しまして、学寮生でもアルバイトを行っているものはおります。

点呼は20時30分ですが、この時間を超えてアルバイトをしたいというものがおります。基本的に4、5年生ですが、家庭教師をしたいなどです。

22時を限度として許可しております。今、だいたい20名ほど登録しており、週何回という制限の中でアルバイトしておる学生がいます。

[委員]

工業高校あたりでは、マイスター制などのようなものの一環として、近場の中小企業などに行って、溶接やヤスリがけ等の作業をやっておりますけれど、高専ではそういうことはどうでしょうか。

[須田教務主事]

インターンシップの形で、4年生のときに1週間から2週間行っております。全国の高専でもトップクラスのほぼ100%近い学生が参加しております。それも、佐世保高専設立当初からやっております、以前は必須の単位としており、必ず参加しないと卒業できないこととしておりました。

一時期、オイルショック等で受入企業がなくなったということで、あるときから選択科目にしておりましたが、現在でも、ほぼ100%近い学生が、よほど時間の都合がつかない場合以外は、自分たちで企業を決めて、東京、九州内などのいろいろな企業にインターンシップを行っています。

このことから、インターンシップ先を自分の就職希望とした学生もおります。就職する学生の内、3分の1ほどがインターンシップ先に就職希望を出しております。

[末岡委員長]

インターンシップは単位になっていますか。

[須田教務主事]

インターンシップは、選択科目の単位としています。

[委員]

英語が弱いということが言われますけど、論文など発表されていて、英語で結構書かれていると思いますが、基礎能力は高専学生にはあると思います。ただ、自分たちがいかにして表現するか、話していくか、コミュニケーションをとるかという部分がちょっと弱いのかなという気がします。

よそからも言われたことがあります。高専の学生に英語をしゃべれといってもしゃべれない人が多いと。

その部分では、今後、どういった取り組みを考えておられるでしょうか。

[須田教務主事]

英語科の先生がおられますので、回答をお願いします。

[末岡委員長]

教員には、ものすごく立派な方がおられるという説明がありましたね。

よろしくをお願いします。

【松尾図書館長（英語科）】

例えば、TOEIC などの公的な機関のスコアからすると、高専の学生が低いというのは事実であります。

大きいのは、大学入試の有無。これは語彙力の問題で、これが違うというのは否めません。ただ、近年、専攻科生に関して言えば、かなりプレゼンテーションを練習しております。相当、専攻科生のプレゼンテーション力は高まってきていると思います。

専攻科の 1 年のときに、学生が英語でプレゼンテーションをして、ネイティブの先生が評価をする授業があって、私も毎回最後の授業に参加していますがかなり上手です。

ですから、TOEIC のスコアは大学入試と大きく関係があると思いますが、高専生はスコア的に高く出ておりませんが、しゃべれるかということに関していえば大学生とも遜色ないかなと思います。

1 年から 5 年まで選択科目で、ネイティブの先生の独自授業もあります。これは、高校生よりも多いと思いますし、卒業生などに聞くと外国人が突然来たときに他の人はたじろぐところで、そうでないことが多いということも聞いたりしますので、点数的には出ておりませんが、実際の場面では役に立っていることが多いと思います。

今後の取り組みとしまして、個人的にも TOEIC のスコアを上げていかなければいけないと思います。

【須田教務主事】

補足しますと、専攻科の修了条件で TOEIC のスコア 400 点というものがありますので、英語科はかなり頑張っておられます。

今後のことになるのかわかりませんが、中国に 4 年生 51 名を連れていきました。中国の交流先には日本語学科の学生が多かったといっても、お互いに交流するため、英語でコミュニケーションすることが多くて、帰ってきた学生の感想を見ると、英語の必要性を身にしみて感じたとか、モチベーションが上がった等の意見がありました。このように、若いうちに海外へ連れて行って、空港でもどこでも英語を使わないと食事もとれない、そういった経験をさせることが語学の大切さに繋がっていくので、こういうことも続けていきたいと思っています。

【末岡委員長】

簡単にお願ひしますね。ちょっと、時間が押しております。

【委員】

はい。ここで、推薦入試というのがありますよね。これは、いわゆる、AO 入試とは違いますか。素人なもので、高専の入試に AO 入試制度は、あるのでしょうか。



[須田教務主事]

本校では、AO入試制度を設けておりません。

AO入試を設けている他の高専もありますので、話を聞くなど調査を行っていますが、本校では利用しておりません。内申書の点数4.1という条件と面接ということです。

面接の時に、例えば、クラブ活動を頑張っていたら、面接点が上がるかもしれませんが、それだけを見て、合格を決めることはしておりません。

[委員]

会社で総務の仕事をしていたことがあります。どこでも一緒でしょうけど、入試などで、結構、各中学校の「おりこうさん」が来ると思います。確かに、「おりこうさん」ですけど、実際に話してみると、マニアックと言いますか、そういう子ども達が多いことがあります。ですから、まだ15歳ぐらいですので、中には「基準に到達してないが、秘めたものがある」というような子ども達もいるという気がします。

ぜひ、その辺にも工夫をして、幅広くみてはいかかかなと思います。どうでしょう。

[須田教務主事]

わかりました。

選抜の方法について、成績の部分だけで取っていることがありますので、特徴のある学生について、面接でそのようなことも考慮するように検討していきたいと思います。

[委員]

私は、前長崎大学学長の齋藤先生と同じロータリーで、先生からいろいろとお話を伺いまして、今回どういった話が聞けるのか、大変興味をもって楽しみにしていました。

法人化されたとあって、経営的な感覚というものが必要になってくるのかなとおもっております。

それで、佐世保高専の評価としまして、どうしても国立高専機構があるので難しい部分があるかとは思いますが、売上でいくと、国からくるのが10億弱。あとは、助成金等によってこられるのが1億弱ぐらい。合わせて11億ぐらいかなと。

それを、どのように経費の配分をして、あとは、寮の方で設備等を新しくした話等もありましたが、どのような経費の使われ方をしておられるのか。

それと、資産価値についてですね。よく、長崎大学などでは、資産価値など使われますけども、広い敷地のなかで工作機械も入っているみたいですが、そのような資産といったものも、経営として、他の高専とかと比較するうえで、重要なファクターになってくると

感じます。

あと、広報ですね。企業とすればマーケティングがあって、プロモーションがあって、セールスという流れがあります。マーケティングは難しいと思いますが、プロモーションとして広報・宣伝のところですね。非常に良い内容のところもありますし、古い内容も掲載されておりましたので、佐世保高専の良いところを、もっと上手にアピールしてほしいと思います。とりあえず、以上です。

[末岡委員長]

ありがとうございました。

## (5)講評

[末岡委員長]

普通だったら、もう終わりそうですけど、今から、外部評価委員の方々には、1人3分から5分ぐらいの時間で、講評をしていただこうと思います。

では、よろしくお願いします。

[委員]

まず、評価委員会の説明を受けて、そのプレゼンテーションが素晴らしいなということから、先生方の学校の評価に対する思いというものがしっかりしていらっしゃるという点で、そういった意味での評価は素晴らしいと思っております。

このような背景には、しっかり、教育研究がなされていることの裏返しだと私は感じております。

今、お話があったように、独立行政法人になりましたら、経営という感覚を持たなければいけなくなりましたが、特に、全寮制として、子どもを預かっておられるということで、経営ということは難しいであろうと思います。

全体として、学生への対応が非常に丁寧にやっておられるなということが、一番の感想としてあります。

以上です。

[委員]

いろいろと説明を聞いていて、半分は予想のつく回答でありました。

ただ、全寮制、5年間の教育という利点があるはずですよ。

昔の中学校の5年間。あの5年間。高専では高校からですけど、高校1年の15歳のとき、20歳の先輩がいたら、先生が注意するよりも20歳の先輩が言った方が、効き目があるはずですね。そういった部分の利点というかメリットをもっと使ってもよいのではないかと思っております。

間違えば、大変なことになりますけど。それで、佐世保高専の伝統、初めにできたときの伝統というものを作らなければいけないのかと思います。

工業高校からみると、5年間というのは、大変うらやましい限りです。3年間で出ますので、1回、学校が崩れると立て直すのに3年から5年はかかります。

そういう意味でいうと、どこかでそういうものができればよいなと、話を聞きながら思っていました。



池田 高良 委員  
長崎県立大学長



松山 秀則 委員  
長崎県立  
佐世保工業高等学校長

あとは、佐世保工業高校も地元に残すように言われております。では、地元に残すためには何なのかというと、正直な話、私は中学校に言いますけれど、「大手企業に行きますよ」という宣伝をします。「それぐらいにも行きますよ」と言います。そのようにして学生を集めます。高専さんもそうだろうと思います。

そのなかで、地元に残すためには何をすればいいのか、地元子ども達が目を向けるにはどうすればよいかということは、考えていかなければならないと思います。

そういう意味で、久留須先生がやられているような、産学官交流とか、我々も参加しますが、地元の企業さんと呼んでほしい。また、これとは別に、職員は職員で別に、地元企業のSSKさん、佐世保重工さんといろいろなところに行きます。

そういうエネルギーが、佐世保工業高校と佐世保高専と役所などが、バラバラにエネルギーを使ってないか。まとめられないか。それが、佐世保の活性化につながるのではないかと、実は、思っております。

以上です。

#### [委員]

さきほどから、丁寧に学生さんを育てられているというのは、私も同感であります。

私どもが、中学の時代を考えますと、学校で13クラスありまして、トップの生徒が佐世保高専に来ていました。そのころの話を聞いていた印象からすると「トップが行っているが、非常に窮屈な生活をしている」という感じが付きまっております。今まで、そういったイメージでございましたけれど、こちらに来て校長先生とお話をしまして、そういう生活面あたり、時代とともに、女子生徒も入っておりますし、上手に対応してこられたのかなと思います。

かつては、高専というと、教養の単位あたりは、なおざりといった言い過ぎですが、技術ばかり磨いているというイメージでしたけど、1年生あたりは、9割近くが一般教養ということで、やっぱり、時代とともに変わってきておられる。

そのあたりのイメージについて、広報が足りないのではないかという感じがしますので、PRの仕方をもっと出していきたいという気がします。

以上です。



高尾 潤 委員

長崎県北振興局長

[委員]

まず、全体から。

非常に先生方が、頭が下がるぐらい行動されていると思いますし、教育が行き渡っていると思いますので、それに対して非常に感銘いたしました。

ただ、それにともなって、クラブ活動等も含めて、先生方が力尽きて廃人になってしまうのではないかと思うぐらいで、大丈夫かなと心配です。

自分の研究をしなければいけない、教育・指導もしなければいけないということで、高専の先生方は、相当のパワーがないと務まらないようで大変だなというのが、第一の印象です。

それから、寮についてです。

最近、東京などの大手企業でもそうですが、寮に対するイメージを見直しているところもあるようで、個別に住むというより、寮で先輩方が社会人・企業人としての指導をするということが、会社の文化等を醸成していくうえで重要だという話もあるようです。見直しなどからすると、寮の中で確実に先輩方から指導してもらうような仕組みを継続してやっていただけないかなと、もしくは、同室でもそのような形があってもいいのかなという印象を持ちました。

講座とか地域連携とかを考える場合に、地域にどのようにして学生を残すかということ、我々も一緒になってやっていけるかという部分で、仕組みなり仕掛けを作っていくのが一番重要だと思います。

実は、地元の中小企業さんは「高専さんは敷居が高くて募集できない」というのが現状です。三菱さん、SSKさん、大島造船さん等を含めたそれなり大手さんじゃないと求人表さえ書けない状況だと思いますので、1名でも2名でも、地元はどうやって残していくかということ、先ほどの講座を見直すとかいうところを含めて、一緒になって考えていく必要があるかと思います。

1つだけ言うと、佐世保地域は造船が盛んなのに、船舶工学がないですね。実際、日本全国で船舶工学というものがまったく無くなっていて、私が聞いている限りでは、長崎総合科学大学さんに唯一残っているということです。地元のある企業さんでは「自分たちで人を育てないといけない」と動き出すようなこともあります。それで、海外に自分たちが出て行かなくてはならないというところもありますので、そのあたりも含めて、ローテクで、昔ながらの工学と言われるかもしれませんが、その中に新技術、新しい発想があると思いますので、そのあたりも含めて考えて頂ければと思います。

以上です。



永田 安夫 委員

(財)長崎県産業振興財団  
佐世保事業所長

[委員]

私も、皆様と同じで、学生にとっては過保護なぐらい面倒見がいいなど、部活、寮生活などからも思いました。

NTCを通じて、かなり、高専さんには出入りさせていただいていましたが、知らないことが多くて。

寮が一番びっくりしました。

私どもも寮・社宅をもっておりますが、新卒の入社で、当然、寮に入ると思われる方でも寮には入らないという傾向が強いというのがあります。

正直なところ、高専の寮よりも費用は安いし、クーラーは付いているし、快適な寮だと思うのですが、そういう傾向のなかで、収容能力を上回るほどの入寮希望があり、5年になってもまだ入りたい人がいるというのは、正直、驚きです。

また、企業側にも責任がありまして、景気の波があつて、新卒を取れるときと取れないときがあつて、イメージとして「造船業は過去のもの」という長い不況がありましたものですから、どうしても根がついていないのではないかと反省をしました。

実は、新卒では苦戦しておりますけれど、ここ1、2年は、Uターン組でかなり佐世保高専の卒業生を迎えることができました。

今後は、学校でなくOB会をまきこんで、企業側としても努力していきたいと考えております。

よろしく申し上げます。



廣津 忠 委員

佐世保重工業(株)人事部長

[委員]

今までの話と重複するところもありますけども、会社であると、顧客満足、従業員満足、従業員の家族の満足というものがあります。

同じようにして高専をみると、学生顧客主義という言葉がありますように、学生には手厚すぎるほどの状況で、部屋にエアコンは入れなくていいのではないのかと思います。

私たちのころは、本当に熱い中生活してはいてですね、ここまで学生顧客主義に走らなくてもいいのではないかと思います、まあ、それは学校の判断ですけど。

あとは、先生方の満足も必要となってくるということで、今のままの状況では、学生の面倒をみて、研究・開発をいろいろとしながら、大変なことになるのではないかと心配しました。

あと、ぜひ、図書館を充実していただきたいと思います。

ある先生から、図書館をみればその学校がわかるということを知りまして、学生時代に



北口 功幸 委員

(株)亀山電機  
代表取締役 社長

図書館をまったく利用しなかった自分がいうのも何ですが、今後は学生に「使え」と胸を張って言いたいので、ぜひ、少しずつでも図書館の充実ということもやっていただきたいと思います。

佐世保高専、あと、街ごとの高専という場合に、高専ということだけで繋がりを感じる場所があります。それに、OBの方でかなり活躍されている方もおられます。そういった方が、私が仕事をするうえで、先輩たちの業績といいますか仕事の結果として、私の今の仕事が出来ているという部分もありますので、OBの方との連携強化のようなことも行ってほしいと思います。

それに関連して、50周年がありますので、そのときに、長崎大学は、大々的に行われて成功されたようですが、それに負けなようなかたちで、ぜひやって頂ければと思います。

以上です。

#### [委員]

もう10数年前だと思いますが、佐世保高専の女子卒業生に入っていたのですが、残念なことに、うちの会社に全国の通信社があるのですが、そこの支局の記者に取られて、残念だなと思ったことがありました。

その彼女を見ていて、挨拶はしますし、仕事はきちんと出来ましたし、言葉遣いも丁寧ですし、見本だなという気がしていました。

先ほどから言われるように、僕らの経験も踏まえていいますと、団塊の世代の終りの方ですが、高校、大学とかで、これほど丁寧に慈しんでいるといえますか、愛情をこめて育てられている教育機関はないのではないかと思います。それは、彼女を見て、そう思っていました。

高専では、1年2年は寮に入らなくてはいけないということで、よく考えてみたら、15歳ですから、その時代は、年がひとつ違えば、本当の兄貴みたいな感じだと思います。このような、高専の特徴として、15歳から20歳まで幅広い世代がいるという特性をもっともって生かして、育てていただければと思います。

しかし、今日、説明を受けまして、本当に先生方が一生懸命にやられているという気持ちがいしひしと伝わってきた、そのような感じであります。

これをもちまして、講評に代えさせていただきます。本日は、ありがとうございました。



才木 邦夫 委員  
(株)長崎新聞社  
佐世保支社長

## [委員]

今回、確認できなかったのですが、前回の外部評価の中でいろいろな提言がなされていますけれども、その結果がどうであったのかがぜひ欲しいなと思いました。また今回、いろいろな話がでると思いますし、それが、どのようになっていったかを次回の外部評価のときにまた出していただければと思います。

それから、いろいろな内容を説明していただいて、大変だということはいくつもわかりましたが、全体的に、私の職業柄なのですが、Plan、Do、Check、Action というサイクルがちょっと見えにくい。先生方がいろいろな取組みをされていることが、どういう計画に基づいて、こういうようなものをしていて、基本的には目標・方針に基づいて計画を立てて、どのような行動をして、チェックして、問題があれば改善をする。クリアされていけば、もうワンステップ上に移行するとか、そういう PDCA がちょっと見えにくいなという感じがしました。

それから、これから先、高専が生き残るためには、地域連携がどうしても大事になると思いますので、なにしろ地元に残ってもらいたい、地元で 1 人でも就職してもらいたいというのがあります。そこまで、なかなか時間的にいかないのであれば、地域の企業さんといかに連携して取り組みをするのか、これは、久留須先生のところが窓口になると思いますが、地域との連携をぜひ強化していただきたい。佐世保高専は敷居が高いという意見も出ていましたが、ここもぜひ改善していただきたいと思います。

私が他の企業を回ったときに、航空高専のほうに設計を発注しているという企業が佐世保市内にありました。で、佐世保高専を使われないのですかと言いますと、やはりちょっとという話がありました。

ぜひ地元と、どのように連携をとるかということを考えていただきたいと思います。

そのためには、高専の宣伝をいかにやっていくかが大事だと思います。

他の委員の方も述べられましたけど、高専は宣伝が下手だと思います。もっともっと、宣伝を上手になっていただきたいと思いますので、なかでも、OB を活用しながら、学内・学外、使えるところを使いながらやっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。



朝永 憲法 委員

佐世保工業高等専門学校  
同窓会会長



[末岡委員長]

はい。ありがとうございました。

最後に、私から話をさせていただこうと思います。

佐世保高専は、九州内でもかなり良い教育をされているということは間違いございません。それと同時に、GP等を取って、それに対して活動していらっしゃるところも一番良い高専ではないかなと思います。

また、今日、話があったなかで大学から見て困ると思うことがありました。

1つは、大学の学部定員・大学院定員が110%を超えると罰金が科せられます。こういったことから考えますと、編入学という話がありました。間違いなく大学側がこれを絞ってまいります。そういったことで、どうするか、どのように変えていくかということを考えていただきたいと思います。

このような話があります。

8大学工学部長会議でのことです。高専がいろいろな大学に編入学をする。ここをちょっと抑えようかなとしたときに、ある大学が言いました。試験に英語を課すとすると、高専からとたんに来なくなる。と。

ですから、全国的に言われている事ですね。そういうことを、大学側が掴んでしまうということもありますので、注意を願いたいと思っております。

もちろん、TOEICとか、大学より年齢が低いですから不利であることも間違いありませんが、そういったことをやられることがございます。

それから、1年生のときにうまく具合に教育されたのか、先生方の熱心さでもって、留年者・退学者がでないのか、これは、本当に調べてみたいなと思いました。

1つに、座学みたいなものを一生懸命しますよ。と。これはダメなんです。今日、話されたのも、「一生懸命わかるように、単位が取れるように一生懸命やりました。」というのもダメだと思います。

どこが一番重要かということ、学生さんと教員が1対1で過ごせる時間を持つということ。そして、学生さんが「高専の先生はこういうことなのか」と、一緒にやる。ですから、我々のところだと、1教員が3名の1年生を持って、高校を出たとたんということですけど、5ヶ月間、何かを作ったり、何とかしながらやっていく。そうしていくと、いつの間にか先生が遠くならない。近い。

大学で一番困ったのは、ミスマッチングで、こういった現象が起こるのかということ、ゴールデンウィークが終わると、パタッと大学に来なくなる。

こういったことが、完全に無くなります。

そういうことで、「また、先生うるさいこと言っとるな」となると困るのですが、やはり、少人数でやる、1対1でやってみるということ。それもひとつの手だなと思っております。



末岡 淳男 委員長

九州大学工学部長  
(九州大学大学院工学研究院長  
工学府長)

す。

それから、いかにして地域的にリクルートを図るかという問題ですが、男と女というのは、半分ずついますが、女性を高専に入れる、女性を大学に入れる、女性を工学関係に入れる。これは、今から、大学・高専、お互いに間違いないですが、絶対にやっていかなければならないことだと思います。

特に、女性が高専に入りますと、地域性が出てくる。遠くにはあまり行かないということがあります。こういったことが、うまい具合に転がればよいのではないかと思います。

ですから、女性が大学に来るためには何なのだろうということを、ぜひ、考えてみていただきたいと思います。今日は、トイレを事例に挙げられましたけど、もっと良いアイデアを何か考えていただければと思っております。

他に、GPを取っていらっしゃいますよね。だんだんと、その期間が無くなりまして終わります。このときの、自立化ということが、お金のこともあるでしょうし、問題になってくると思います。

今日、お話を聞いておられますと、21年度では2学科を中国に連れて行って単位化をするという話だったと思いますが、これも1つの自立化であろうと思いました。これまではお金をもらっていたからやるけれども無くなったからやめると、こういったことは言えませんから、かなり努力されているだろうと尊敬をしているところであります。

それから、広報の件です。

やはり、今からの目玉です。今日の説明では、対象が誰なのかあまりよくわからない。内容はこういうことですよといったことはわかりましたけど、この広報では誰を対象にするから、表現はこういうことにしようといった、かなり区別をせざるをえないと思います。

ですから、中学生に言おうとしているのか、それとも、高専の紹介という言葉が出てきましたが、私はあまり区別ができませんでした。やはり、紹介するにも対象者がいますので、それによって変わってくる部分があるのではないかという気がします。

すごくうまくいっているという、おもしろ実験大公開。これは、ビジネスにしなければいけませんから、どのようにしたらいいのかも考える必要があると思います。

参加人数が多かったからいい、少ないから困ったということではいけないと思いました。

それから、地域連携に関してですが、教育にも、研究にもということで、これは高専の良いところだと思います。

リクルートの方は、私は大学におられますので、地域に就職するということは、我々ではありえないことであります。「海外にでも行け。」という感じでありますので、これについてはコメントを控えさせていただきたいと思います。

今日、説明があると思っていて無かったことが、授業アンケートをいかにして活用されているのかということに関して、説明が無かったので、うまくいっているから留年者・退学者が少ないというような、何かしらのストーリーがあるのではないかと感じていました。

以上でございます。ありがとうございました。

## (6)閉会挨拶

[井上校長]

非常に長時間に渡りまして、外部評価委員会としまして、私どもの話を聞いていただき、また、大変貴重な提言をたくさんいただきまして、ありがとうございました。

私どもが発表した内容についていくつかコメントいただいた件で、特に広報についての意見がありましたけれど、私どもとしまして、伺ったご意見を参考にして、1つ1つ丁寧に改善していきたいと思えます。

委員から、「PDCA が見えない」、前回の評価をどう生かしたかと言われましたが、前回の評価から、今回のことをやってきました。1つ1つ考えながら、改革を進めております。例えば、授業アンケートをどう生かしているかといった話がありましたけれど、学生による評価の点数が悪い先生方には、教務主事から注意があるそこまでやっておりますので、年々、学生による評価が上がっているということも事実でございます。これも、PDCA だと思っております。

貴重な意見としまして、やはり、「女性を高専に入れて下さい」という部分です。これは、まさに、おっしゃる通りでありまして、むしろ、私どもは全国平均くらいしかない、増えていないということも大きな問題だろうと思えます。

それから、下級生と上級生の年齢差を活かしてほしいとの意見がありました。このことが、もっとも活きているのが課外活動だと思っております。最近、特に現代 GP の補助金をもらって始めたキャリア教育におきまして、上級生をファシリテーターとして使って、下級生にキャリア教育をする。そうすると、上級生側からも **Teaching is Learning**. といったかたちが取れますし、年齢が近いということもありまして、効果も高い。そういったこともやっております。そういうことでは、足りないのかもしれないので、今日いただきました意見を参考にしながら、ちょうど今、次の中期計画をまとめているところでございますので、そのなかに、今日のご意見等も取り入れて、よりよい高専にしていきたいと考えております。

本日は、ありがとうございました。



# Ⅱ 評 価 結 果 報 告 書

## 1. 評価点

	末岡 委員	池田 委員	松山 委員	高尾 委員	永田 委員	廣津 委員	北口 委員	才木 委員	朝永 委員	平均
学生(本科)の教育について	5	5	5	4	5	4	4	4	5	4.6
専攻科の教育について	4	5	5	3	5	4	4	4	4	4.2
学生生活について	5	5	4	5	3	4	5	4	5	4.4
学生の寮生活について	4	4	4	5	3	5	5	4	5	4.3
地域連携及び産学官交流について	5	5	3	4	4	2	4	3	4	3.8
広報活動について	4	4	4	2	3	3	4	4	3	3.4

評価点	評 価 基 準
5	優れている。(あるいは、)適切である。
4	やや優れている。(あるいは、)ほぼ適切と言える。
3	普通。
2	やや劣っている。(あるいは、)あまり適切と言えない。
1	劣っている。(あるいは、)適切でない。

## 2. 意見・提言及び本校の回答

外部評価委員から委員会終了後、後日提出いただいた評価結果報告書のご意見・ご提言を次のとおり示します。

### 項目1. 学生(本科)の教育について

#### <意見・提言:末岡委員>

体験学習方式による実践的なものづくり教育を行っている。高専の学生の弱いところは英語能力であるようだ。

推薦入試は中学校との定期的な連携活動を行い、信頼性を維持しないとじり貧となる。一般入試と推薦入試の入学後・卒業後の統計を取ることも必要である。社会からの要望、社会からの輩出学生の評価は非常によい。

中学からの成績の良い生徒が入学しているが、さらに入試倍率の向上に向けて、女性の入学を推進していただきたい。これが、また地元への就職や地元へ戻ってくることに繋がる。

新入生を教員あたり2~3名をつけて、座学ではなく、教員と直にふれ合う時間をもてる創成科目を実施するとさらに生徒の勉学意欲が湧くであろう。

#### <回答>

英語能力の向上のため、TOEIC、工業英検や英検等の外部試験を積極的に受験するように指導し、英語科教員によるTOEIC対策補習授業も行っています。TOEIC 450点や英検2級取得を専攻科学力入試の英語100点とし、英語受験免除条件としています。また専攻科推薦入試では受験資格としてTOEIC 300点を受験基準に導入しています。現在、国際コミュニケーションスキルとしての英語力向上を含めた教育プログラム「国際的協業による実践的若年技術者の育成」一伸びこぼしを防ぐ異文化交流涵養のための国際的技術者育成コース制度の新設一を平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラムとして申請中です。

推薦入試と一般(学力)入試合格者の入学後の成績について、現在統計を取っています。昨年度から開催している女子卒業生による本校学生による講演会に、今後女子中学生も参加できるようにし、女子志願者増につなげたいと思います。新入生に対する創世科目としては、1年生に設けている創作実習を、更に充実させていきたいと思います。

#### <意見・提言:池田委員>

優秀な中学卒業生が有能な教員集団によってきめ細かな指導を受け、丁寧に育てられ、またキャリア教育も充実しているなど感銘を受けました。ただ、過保護になっていないかを心配していました。

#### <回答>

今後もキャリア教育、学生支援教育を含め、さらにきめ細かい教育を継続し、過保護にはならないようになお一層努力していきたいと思ひます。

#### <意見・提言:松山委員>

よく努力されていると感じます。見習うべきところが多いと感じています。5年間の生徒は、かつての中学校の雰囲気があればと思ひます。部活動という話が校長からありましたが、それ以外の分野での活用ができればと思ひます。文科系等でも。

地元に残すということは県としては望むでしょうが学校としてはそれほどの魅力がないことも分かります。ただ、地元の発展には少しは貢献すべきではないかと思ひております。工業高校も同じだと思ひています。

昨年卒業式に出席させていただきましたが、生徒の雰囲気はかつての高専のイメージとは程遠いものがありました。地域全体での共通理解が必要であり指導が必要なのだと思ひます。もっと外に目を向けてということをおの学校も感じています。

#### <回答>

地元におの校の卒業生を残す「長崎県県内就職促進奨学金返済補助金」制度が、昨年度から佐世保工業高等専門学校・県内工業高校連携推進協議会を通して新設されました。この制度を利用する推薦編入学生が増加しており、県内就職率があがると考えています。本校では地域企業立地促進等事業補助金による人材養成等支援事業「技術者育成講座」を、地場企業、新規創生企業及び誘致企業のために、「地域産業活性化に求められる中核となる人材の育成」及び「地域企業を担う次世代の若手技術者及び学生の育成」を目的に開催しています。

#### <意見・提言:高尾委員>

- ・くさび型カリキュラムの導入による早期専門教育の実施や実験・実習重視の教育により、大学教育に負けず劣らない内容になっており、学生を丁寧に教育されていると感じた。
- ・就職については、現在の県内企業への就職率は、高いとは言えず、学生へ県内企業の情報をより多く伝えていただき、学生の企業選択の幅を広げて、県内企業への就職率アップに繋げていただきたい。

#### <回答>

今後も大学教育に負けないように、早期専門教育の利点を活かし、実験・実習を重視しながら更なる教育プログラムの見直しを行い、教育改善に努力していきます。

県内企業の情報を多く伝えるため、低学年の工場見学会を平成19年度から実施しています。また、地元企業による就職合同説明会を4年生全員及び専攻科1年生全員を対象に10月に開催し、37社の地元企業の参加がありました。就職合同説明会の開催時期等を含めた開催方法を改善し、県内企業就職率向上につなげたい。



#### <意見・提言:永田委員>

・教育目標が明確化し、入学者選抜や対策、教育課程も充実している。先進的取り組み；GPも取られ前向きに進められているが無理や負担増になっていないか心配。

・退学者・留年者が非常に少なく、先生方の努力と学生の質の高さと推察するが他校との違いをあらゆる角度からベンチマークしておいたらどうだろうか。（PR効果）

・長崎県と佐賀県の中学卒業者が殆どで特に県北佐世保市から40%入学していると聞いたが、地元への就職者が少ない。魅力ある企業がない、大企業が少ないという就職希望者とのミスマッチもあるかとは思いますが、一人でも多く地元就職するよう指導して欲しい。

#### <回答>

先進的な取り組みを行う GP 担当者の負担増を避けられず、少しでも担当者の負担が減るような全校で協力していく体制が必要と思います。

他校との違いを、退学者・留年者数以外も調べ、本校の優れた点を PR ポイントとして広報し、質の高い学生確保につなげていきたい。

地元本校の卒業生を残す「長崎県県内就職促進奨学金返済補助金」制度の活用及び平成 19 年度から開催している地元企業就職合同説明会の更なる充実により、県内企業就職率向上につなげたい。

#### <意見・提言:廣津委員>

当社の入社試験（筆記）結果からも大学（院）卒業見込み者と比べても全く遜色なく、レベルの高さは予め理解していたつもりであるが、今回の委員会でその確認ができたと思います。高等学校と大学の良い面を併せ持つ印象です。大学受験がないものの、よい意味での緊張感が継続されていて、教員も大学の教員よりは研究者としてよりも教育者としての側面が強いという印象です。英語力を不安視する声もあるが、課外授業（クラブも含め）カバーできないか。就職率がほぼ 100%という点が高専の評価全体につながっていると思うが、やはり地元就職者が少ないということは問題であろう。当社の場合は近年 U ターン者を採用しているが、企業もそこに目をつけなくてはならないし、学校としても支援するシステムが必要かもしれない。

#### <回答>

今後も大学(院)卒に負けない実践力技術者を育成して行けるように、更に教育改善に努力していきます。

地元本校の卒業生を残す「長崎県県内就職促進奨学金返済補助金」制度の活用及び平成 19 年度から開催している地元企業就職合同説明会の更なる充実により、県内企業就職率向上につなげたい。また、本校 HP に佐世保高専求人・求職システムを開設し、本校の学生と卒業生・求人企業（事業者）が自由に参加し、電子メールによる連絡機能によって、雇用関係成立に向けた相互の情報交換の場として提供しており、U ターン希望の卒業生と地元企業との情報交換が行えるようにしています。

### <意見・提言:北口委員>

水中ロボットの画像が平成16年と非常に古く、佐世保高専教員による優秀な研究内容のニュースリリース不足を感じました。

進級率が九州内他高専に比べ非常に高い事は、高い評価と思います。然しながら、学生の質を落とさず、どのような打ち手で、その結果を得る事が出来たか、また、先生方の苦勞を表す資料があればよかったですと思います。

日中交流が活発に行われている点は素晴らしいと思います。中国に加えて+αとして、世界で最先端の技術に触れる事が出来る、交流を今後、少しで良いので行って欲しいと思います。

### <回答>

今後教員研究活動においても、特に優れた研究取り組みや成果等により新たなニュースリリースがでるように努力したいと思います。進級率を上げるためには、各先生が試験毎に追試や補講を行うなどきめ細かい指導が他校より行われているためと思います。次回は、具体的資料等の準備をしたいと思います。

日中交流事業を更に発展させ、国際コミュニケーションスキルとしての英語力向上を含めた教育プログラムとして、中国、スウェーデン、韓国との交流による「国際的協業による実践的若年技術者の育成」-伸びこぼしを防ぐ異文化交流涵養のための国際的技術者育成コース制度の新設-を平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラムとして申請中です。また、今年度は韓国仁荷大学との交流協定締結を計画しています。

### <意見・提言:才木委員>

・九州内の各高専の退学者・留年者、進級率をみると、いずれもトップの成績（退学、留年は最小）を挙げられているように、教育目標に沿った、教職員挙げてのきめ細やかな指導ぶりがうかがえる。

・入学者選抜では、大学などで相当の経験を積み、功罪についての研究・分析も進んでいるAOも考えていいのではないか。AO入学者の意識の高さが全体を引っ張り、底上げに貢献しているとの情報も散見される。一方、学力入試で一度落ちた生徒が翌年度、合格を果たし、同じように高い意識で一つ下の同級生を引っ張ってくれるとのケースも聞く。いずれにしても、入学者選抜の方法は、まだ改善の余地があるような気がした。

・生徒のモチベーションをさらに高めるために、可能なら大学などと連携し講義を受けるなどの、単位の互換性などもあっていいのではないか。

### <回答>

今後もキャリア教育、学生支援教育を含め、さらにきめ細かい教育を継続し、教育目標に沿った教育を実践していきたいと思います。

AO入試についての高専研究集会に一昨年参加し、AO入試の利点や問題点等を検討しましたが、現在のところ本校では導入予定はありません。

NICE キャンパス長崎という長崎県内全ての大学・高専が参加している単位互換制度に本

校も加入しており、各大学が提供している特色ある授業科目の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば 所属大学の単位として認定されます。

#### <意見・提言:朝永委員>

・一般科目と専門科目のバランス、教育体制、学生への支援体制などきめ細かに対応されていることがよく理解できました。他の大学の評価委員の方から「羨ましい」という言葉が出ていましたが、これらの結果が、退学・留年数の少なさになっているものと思います。  
・専門性に加え、社会人としてのセンス、識見をどう育成するかキャリア教育の効果が期待されます。

#### <回答>

今後も大学に負けないように、キャリア教育、学生支援教育の充実を含め、さらにきめ細かい教育を継続し、教育目標に沿った教育を実践していきたいと思えます。

## 項目2. 専攻科の教育について

#### <意見・提言:末岡委員>

複合型教育（ジェネラリスト）を取り入れたものづくり工学の実践を行っている。人に教えることは自分を見つめ直す教育機会と捉えている。特色のある演習・実験・ゼミを取り入れている。

学士取得率を向上させることが生徒にとっても必要である。

#### <回答>

毎年、学士取得率 95%以上を目標としています。

#### <意見・提言:末岡委員>

技術士 1 次試験合格者が技術士になろうとしているのか、目的は何か余りわからなかった。

#### <回答>

技術士を目指すように指導していますが、追跡調査が未だです。実施したいと思えます。

#### <意見・提言:末岡委員>

高専卒業生は、努力家でまじめであり、実践的なものをよく知っているが、予想できないような成果を出すことはあまりない。

#### <回答>

そうでもありません。高専機構が刊行した「われら高専パワー全開—社会で活躍する高専卒業生たち—」（200 ページほどの冊子）をご覧ください。94 名の業績が掲載されています。

す。

**<意見・提言:池田委員>**

教育体制。特に、複合・融合型教育が素晴らしい。

**<回答>**

これからも、継続・発展させたいと考えています。

**<意見・提言:池田委員>**

研究意欲のある修了生が比較的多いことも、素晴らしいことと思います。

**<意見・提言:松山委員>**

工業を志願する生徒には、英語が苦手というのが多いのが現実です。個人としては必要に迫られると、会話はできるのですからそれ程心配していません。外国に伍して技術者として人間としての教育・一般教養をおろそかにしないことを忘れないようにしないといけないと思っています。

**<回答>**

英語教育、特に、TOEIC 基準を上げる方策をどうするかは、ずっと問題として残っています。

**<意見・提言:高尾委員>**

・実験・実習を通じた少人数教育により高度な高等教育が行われているが、英語力のアップが課題とのことであり、今後も、学生の英語能力の更なる向上も含めてきめ細やかにご指導いただきたい。

**<回答>**

ご指摘のとおり、英語教育、特に、TOEIC 基準を上げる方策をどうするかは、ずっと問題として残っています。英語科との話し合いを持ちたいと思います。

**<意見・提言:永田委員>**

・本科もそうだが専攻科修了学生の質の高さを企業、先生方から伺っている。中期目標に基づき専門課程が多く研究量が豊富であることそのレポートや研究成果、卒業研究を本科そして専攻科2回も行うことにより自身のレベルアップと自信に繋がっていると思う。

・就職だけでなくキャリアアップとして起業家を育てること、経営的センスを磨く時間を地域企業の先輩方（社長）と相談し増やして欲しい。

**<回答>**

現在、キャリア教育として総合ゼミの中で年間の1/3程度を、そのことに費やしています。しかし、なかなかその効果を評価することは難しいと思います。

**<意見・提言：永田委員>**

企業へ3ヶ月以上の長期インターンシップを早急に導入して、地域との連携・融合事業に更に積極的に働きかけて欲しい。要望あれば一緒に企業訪問したい。

**<回答>**

1年次は、カリキュラム上、無理なので、2年次後半で検討したいと思います。しかし、2年生は進路が決定済みという難点があります。

**<意見・提言：廣津委員>**

少数精鋭、客観的な指標となる JABEE に対応したカリキュラム、学士取得にも基準が設けられており、一般の大学よりも厳しいと思われる基準により運用されている点は非常に評価できる。専攻科が設立された際にかかなりの努力がなされたのではないかとと思われる。

問題となりうる点は一般的に認知されていないのではないかとという点で、自覚されているようですが、地域、産業界との交流を活発に行う必要があるのではないだろうか。

**<回答>**

ご指摘のとおり、広報活動に難があることは認めざるを得ません。現在、総合ゼミの中に、「地域連携型キャリア教育」を導入したり、「専攻科ホームページ」の充実を目標にしています。

**<意見・提言：北口委員>**

4項目の中期計画に対して、PDCAがわかる資料があれば良かったと考えます。

**<回答>**

確かに、そのとおりでした。計画に対して結論だけを述べています。次回は、ご指摘の点、考慮したいと思います。

**<意見・提言：北口委員>**

専攻科修了生に対する評価の一例は高い評価と思います。

**<意見・提言：才木委員>**

・充実した教育内容だと思う。実社会に入ってからの仕事ぶりはもちろん、知識、呑み込みの早さなど、大学卒より即戦力になりえると期待した。

**<回答>**

東京高専がまとめました「企業による専攻科修了者の評価ならびに専攻科教育への要望－専攻科修了生に係る企業アンケートの結果報告－」（20ページの小冊子）に、専攻科修了生と大学卒との比較が載っています。

#### <意見・提言:朝永委員>

・基本的な専門性のほかに、幅広い技術者としての力量を育てるために、地域連携への取り組み、海外との交流は大変有効と思います。

・英語が弱いのは、高校生の受験英語と比べるとその差は理解できますが、英語への基礎能力はあると思います。物おじしない意思疎通ができることがまず大事だと思います。自分の意思を伝える、意見を表明するなどを繰り返すうちに語彙が少ない弱みや、表現能力の弱点が分かってくると思いますので、積極的な会話や発表の機会を増やすなど必要ではないでしょうか。

#### <回答>

ご指摘のとおり、英語教育、特に、TOEIC 基準を上げる方策をどうするかは、ずっと問題として残っています。英語科との話し合いを持ちたいと思います。

### 項目3. 学生生活について

#### <意見・提言:末岡委員>

・課外活動、学外活動などの活動は定期的に行われ、成果を出している。

・社会人の第1歩としての学生指導も行われている。最近、学生が精神的な問題を抱えていることが多い。学生相談には十分に呼応していただき、早期対応をお願いしたい。

#### <回答>

・学生相談に対する要望

学生主事からの説明においては、直接の担当でないことと、時間的制約から学生相談の体制について十分な説明が出来ていなかった。

実際には、学生相談室長以下、各学科の教員や保健室の看護師からなる学生相談員の体制を整えている。さらに、月に延べ3回のペースで定期的に学外のカウンセラーに来校してもらっている。

また、特別な学生相談体制が必要と考えられる事態が発生した場合にも、学外カウンセラーに対応してもらえる関係を構築している。

#### <意見・提言:池田委員>

課外活動を学生会会員に義務付けているとのことですが、高専では一般的なことでしょうか。(大学では考えられないこと)

#### <回答>

「課外活動を学生会会員に義務付け」という表現になると、実態とはやや乖離するかとと思われる。学生会規約には、学生はいずれかのクラブに所属するように記されており、1年生当初は全員がどこかのクラブに入部するように指導されている。しかし、学生によって

は様々な事情を抱えている者もあり、その後退部し、どのクラブにも所属していない学生もいる。他の高専でも似たような状況であるが、課外活動特に体育局に所属するクラブの活動については、本校の活発さが認められる。

#### <意見・提言:高尾委員>

- ・学生指導について、きめ細やかな指導をされており、校内の学生についても、礼儀正しい印象を受けた。
- ・今後についても、クラブ活動などの課外活動を通しての経験は、人格形成において、重要と考えるので一層のご指導をお願いしたい。

#### <意見・提言:永田委員>

- ・非常に盛り沢山の行事が生まれ運営されており、先生方が教育だけでなく学生生活指導まで入り込んだ活動と取り組んでおられる状況にパワーを感じるが先生方の身体が大丈夫か心配である。
- ・余りにやり過ぎでないか、逆に甘くないか・・厳しさと自由の二面性のバランス取り方の難しさを感じる。

#### <回答>

- ・教員の多忙化が著しく進んでいる中、多くの教員に熱心なクラブ指導をやってもらっている。負担軽減のためにも、適切なクラブ数を設定し、今後は削減する方向でその具体的方策を検討している。
- ・厳しさと自由の二面性などについては、本校が高校生世代と大学生世代が混在していることもあり、指導の面に置いて苦慮する場合がある。本校の4・5年生に対しては、世間一般が大学生に対して容認しているレベルの自由さよりも厳しい指導となっている点は、避けられないと考える。

#### <意見・提言:廣津委員>

部活動への加入率が高いことに驚かされた。高校ではこれほど高い加入率ではないと思われる。また、高専体育大会等でも好成績を収めていることは知らなかった。その他の行事も一般の高校と同等かそれ以上に活発に行われている点が理解できた。

#### <意見・提言:北口委員>

全体的にバランスよく取り組まれていると思います。また、社会的な問題に対しても取り組まれていると思います。

どうしても、学校行事と言えばスポーツに焦点があたりがちですが、佐世保高専は技術系の学校なので、ロボコンなどの技術に関する活動に焦点を当てて頂きたいと思います。

#### <回答>

- ・ロボコンについては、この分野を専門とする新任教員を迎えたこともあり、注目度を上

げられるよう支援していきたい。

**<意見・提言:才木委員>**

・スポーツ大会など、新聞で高専の名前をよく見る。頑張っていると思う。

**<意見・提言:朝永委員>**

・学生が、文化面・体育面双方で活躍しているのが、大変頼もしく思います。  
・学生の指導/支援が細やかに行われていることがわかりました。入学とともに自立した学生として扱いを受けるので、自覚や自己規制など新たな経験をする中でのフォロー体制がわかりました。

## 項目4. 学生の寮生活について

**<意見・提言:末岡委員>**

寮内での学年間の交流などを行っている。寮での生活に対する教員の努力に敬意を表したい。現在において、男子生徒の入寮希望者が多いことはうれしいことである。女子生徒の入寮を促進することも、志願率向上と合わせて考えてほしい。

**<回答>**

平成21年度の1年生女子の入寮数は例年に比べ倍増しました。遠距離の女子学生が増えたため、今後はこの傾向が高まると考えられます。

**<意見・提言:末岡委員>**

パソコンによる生徒への情報配信をし、授業内容・宿題・質問回答などに利用できると良い。

**<回答>**

個人でパソコンを所有する者も増えており、将来は各部屋に情報コンセントを設置することも検討が必要と考えられます。ただし、インターネットで時間を無駄につぶす恐れもあるため、有効活用する使用方法についての検討も必要です。

**<意見・提言:末岡委員>**

改修は早期に行い、厚生インフラの質向上を達成していただきたい。

**<回答>**

居住環境の改善は常に取り組んでおり、今後も着実に改修をはかっていきます。



**<意見・提言:池田委員>**

青春期の学生の生活指導、健康管理など学びたい。近年は若者のメタボリック・シンドロームも増えています。

**<回答>**

規則正しい生活習慣を身につけ、朝、昼、夕の3食をしっかりと摂ることにより、健康な状態が維持されていると思います。

**<意見・提言:松山委員>**

言わずもがなですが、この学生生活の規律の中で先輩後輩のコミュニケーションが培われ、人間としての成長があると感じています。生徒は苦しいでしょうが。寮の改善に取り組まれていることはとても大事ですし、掃除の指導が人格形成にとっても大事だと思っています。

**<回答>**

親元を離れ、身の回りの整理整頓・清掃を全て各自でしなければならない状況であり、さらに、風呂場や娯楽室等公共の場も定期的に清掃する経験は、自立心と公共心を育むことにも有効と思われまます。

**<意見・提言:高尾委員>**

- ・入寮希望者が多いという説明に、意外な気がした。
- ・最近の経済状況もあり、優秀な学生の確保のためにも、寮の重要性は増しており、冷暖房設備の改良など、よりよい居住条件の整備が必要と考える。

**<回答>**

魅力ある学寮となるように、今後も居住環境の改善には常に取り組んでいきたい。

**<意見・提言:永田委員>**

- ・ハード面の投資が必要だが、入寮したい人を出来る限り入寮させて欲しい。

**<回答>**

入寮希望者が増えている状況はよいことであり、できるだけその希望を受け入れるように努力していきたい。ただし、新しい居室の建設については簡単にはいかない状況です。

**<意見・提言:永田委員>**

- ・企業では社員寮の復活の話も聞く。文化・風土の醸成にはやはり先輩方からの指導や助言が一番大切ではないか。

**<回答>**

学寮生活では、同級生どうしだけでなく、多くの先輩後輩と関係することができ、いろいろなつながりできるのも一つの利点です。

### <意見・提言:廣津委員>

一般には現代人は少子化などの影響で集団生活が苦手とされるし、文化系の私からは技術者（及びその卵）は個人主義的なイメージがある。収容能力以上に入寮希望者がいるということは、ある意味で時代に逆行しているようで興味深い。しかし、この傾向は歓迎すべき事なのかもしれない。古い施設であるが更新もされており、寮生会の運営も確かに為されていることの結果であろうと思う。教員による検食や巡回には頭が下がる思い。寮費を個別にみると違和感がないが、総額はそこそこの金額となり、学費と合わせて考えれば苦しい家庭もあるものと推察する。学費の免除や奨学金の活用でカバーできているのであろうが、何らかの援助手段がないものかとも思う。

### <回答>

確かに、この不況で職を失った保護者等もあり、寮費の滞納もいくつか発生しています。しかし、大学の場合はさらに倍近い経費であることから、滞納者には何とか支払い方法等も考慮しながら納入をお願いしています。

### <意見・提言:北口委員>

先生方の苦労が多すぎるのではないのか？と心配してしまう程、非常に充実した内容になっていると思います。

当時何もなかった沖新寮で育った私は、社会人となり、便利な事が多く非常に嬉しい思いがしました。然しながら、現在のように便利な寮で育った学生は、社会に出た時、逆に不便さを感じるのではないかと心配致します。昔は何の設備がなかったので、良い意味で「免疫」が出来ていたので、社会に出て、少々の事は耐える事が出来たと思っています。然しながら、学生への満足度を上げる上では、ある一定の設備投資も止むを得ない事かも知れません。

### <回答>

20年前と比べれば施設もきれいになったり、食事もよくなったりしています。しかし、3人部屋や2人部屋は以前と同じであり、決して広い状況ではなく、ものが増えた昨今では、さらに狭い感じがします。また、400人もの寮生が所狭しと生活する環境は以前と同じで、特にエアコンのない夏場の暑さは厳しいものがあります。しかし、寮生はその中で逞しく育っており、西雲寮を経験すればどこでも対応できると今でも言える状況です。

### <意見・提言:才木委員>

・中等教育で寮生活があるのは、最近では有名私立受験校などぐらいで、公立ではなかなかできないのが現状だ。かつての旧制中学、高等学校が知を育ててきたのも、年が違う世代と一緒に暮らし、互いに刺激し合った寮生活を抜きに語れないものがある。他の教育機関にない高専のアドバンテージだと思う。施設も含めて一層の充実を期待している。

### <回答>

佐世保高専の教育の大きな特徴の一つが学寮であるため、今後も学寮の充実と、教職員の

熱意を学寮に注ぎ込んでいきたい。

#### <意見・提言:朝永委員>

・高専卒業生が、企業に溶け込むのが大学卒に比べ良好といわれています。その背景に全寮制の効果があるのではとも言われています。環境にも恵まれ先生方、職員の方々のフォローが行われているのがよくわかりました。

#### <回答>

西雲寮を経験した学生はどこでもやっていけると自負しています。佐世保高専生の大事なアドバンテージとして今後もよい学寮を運営していきたい。

## 項目5. 地域連携及び産学官交流について

#### <意見・提言:末岡委員>

総合技術教育研究センターを通じて、地域社会の発展と高度化に貢献する目的を有している。教員の過剰負担とならないように適正な規模で実施する必要がある。

高専の地域連携は、非常に重要である。事実、かなり実施している。しかし、就職先を地元求めなくても良いのではないかと思います。西九州テクノコンソーシアムと連携した人材育成は地域活動として実施していただきたい。

#### <意見・提言:池田委員>

産学官連携、地域連携を積極的に進めておられる。

#### <意見・提言:松山委員>

地元企業との連携は大事ですが、何を求めているのかを知っていないと空回りします。

佐世保工業高校も高専との連携をしていきたいものです。技術的なものについて大いに教えを請いたいものです。

#### <意見・提言:高尾委員>

・現在、地域貢献というのは、各教育機関に求められているものと考えますが、特に貴校の場合、県北地区に唯一の工科系高等教育機関としての役割は大きいと考えるので、積極的に地元企業のニーズをくみ取ることが重要と考える。

・出前授業については、件数を減らされているとの説明があったが、小中学生等が高等教育に接する良い機会なので、件数の増加が難しいならば、より一層の内容の充実等をお願いしたい。

#### <意見・提言:永田委員>

- ・高専が西九州テクノコンソーシアムという産学官民組織の中心的役割ではあるが、地域にとってなくてはならない存在感を出して欲しい。
- ・そのためにはシーズ研究だけでなくニーズ：出口を見据えた事業の発掘と取り組みが必要で企業や地域を考えると一次産業（農業・水産業）を含めた連携事業を模索して欲しい。

#### <意見・提言:廣津委員>

広報活動ともつながることであるが、資料・説明・数字上ではかなりの件数が行われているものの、一般的には殆ど知られていないのではないか。特に、産学界との交流については努力が必要と思われる。NTCの活動がそろそろ大きな結果を出さなければいけない時期にも来ている。造船関連産業と連携すべきとの意見が出ていたが、当方も造船産業に身を置く者の一人として、連携のアイデアを出していきたい。

#### <意見・提言:北口委員>

基本指針のOutputとして、“「地域社会の発展と高度化」に寄与”と記載ありますが、そのための打ち手の内容は充実していると思います。然しながら、Output目標“「地域社会の発展と高度化」に寄与”に対する達成度が数字的に判断出来ればBestと思います。その為には、“「地域社会の発展と高度化」に寄与”に数字的な判断材料を加えて目標とすべきと考えます。

#### <意見・提言:才木委員>

- ・出前授業など、工夫を凝らした地域交流は評価できる。リクルートにもつながる。
- ・地元就職という最終的な意味での地域連携をみると、学生と企業側のミスマッチ（佐世保高専総合技術教育研究センター報 No.3）がどうしても横たわっている。教職員もおそらく他の高専との競争から、学生と同様に大企業志向であることは理解できないことではないが、地元の技術力アップのためにも有効な対策をお願いしたい。

#### <意見・提言:朝永委員>

- ・地域に役立つ高専という位置づけがまだ弱いと思います。西九州テクノコンソーシアムの取り組みがその窓口の一つになるように今後の連携が重要だと思います。
- ・高専は敷居が高いと地元企業から言われることがあります。地元企業の先入観を無くすためにも産学官交流の活発化が必要と考えます。他高専・工業高校のように企業と商品を共同開発する等は宣伝効果もあると考えます。地域共同テクノセンターの活動に期待したい。
- ・卒業生の地元就職が少ないなかで、企業との連携は、地元にも目を向ける一つの効果になると思います。

## <回答>

本校の地域連携活動に対して高く評価していただいたものと理解しております。ただし、今後の注文としてのご意見を集約すると「地域連携の強化」と「卒業生の地元中小企業への就職率向上」であると思われまます。その2点について以下にお答えします。

### 1. 地域連携の強化

本校が位置する長崎県北部地域と佐賀県西部地域における産業の抱える課題に一体となって取り組むために、平成18年に産官学民連携を目的とする組織として西九州テクノコンソーシアムが設立されました。この地域で唯一の工科系高等教育機関である本校は、今後もこのコンソーシアムにおいて、技術振興、人材育成および技術開発基盤整備に関して中心的な役割りを果し、総合技術教育研究センターを窓口として共同研究、技術相談会、技術研究会、講演会、パネル展示などの実施、地元企業人材の育成や地元学生育成などの事業に積極的に協力していきます。

特に連携を強化するために、長崎県産業振興財団佐世保事業所および佐世保市産業支援センターのコーディネータを活用して共同研究を推進します。また、特定非営利活動法人「長崎県科学・産業推進機構」と提携して外部教育力の活用と社会連携活動を推進します。教員、技術職員が連携して小中学生に対する理科教育および社会人教育を推進します。地域連携テーマを卒業研究に取り入れたり、企業人と学生との交流を行ったりすることにより地域産業界等と連携して共同教育を促進させます。

### 2. 卒業生の地元中小企業への就職率向上

長崎県との連携推進事業として、工業高校からの推薦制度を設け、その制度により入学した学生が県内中小企業に残った場合は、県が受給した奨学金を50%援助することになりました。工業高校のトップクラスの生徒が、この推薦制度を利用して高専に入学していることから、地元企業への就職者が増加していくことが期待できます。

本校ではインターンシップを選択科目の単位としており、全国の高専でもトップクラスのほぼ100%近い学生が参加しています。就職する学生の内、3分の1ほどがインターンシップ先に就職希望を出していることから、地元企業との連携を強化してインターンシップを実施することにより就職率が向上するものと考えられます。

## 項目6. 広報活動について

### <意見・提言:末岡委員>

広報は高専の日常的な活動や入学者獲得に極めて重要なものである。

広報の対象者を意識してほしい。HPを中学生に見せるのか、中学教諭に見せるのか、それとも地域に公開する事項なのかなどの整理が必要である。

「おもしろ実験大公開」の地域活動貢献は評価できる。この来場者の増加をどのように

捉えるのか。実施困難と考えるのか、これを如何にビジネスに利用するかなども検討していただきたい。

#### <意見・提言:池田委員>

- ・授業評価の教員へのフィード・バック（掲示板にもあり）と学生への説明がなされている。
- ・広報の充実：公共の施設、乗り物、媒体での広報も。

#### <意見・提言:松山委員>

広報活動に努力されていることはよく分かります。工業高校も同じですが、広報の方法をお互い知恵を出し合うことも必要なのかも知れません。

HPは必須条件ですが、関心を持たれた時に調べるものですから、関心を持たせる方法が必要なように感じています。

マスコミの活用です。

#### <意見・提言:高尾委員>

- ・学校ホームページを刷新されるなど努力はされているが、歴史ある佐世保高専の活動が県民にもう一步浸透していないと感じられる。
- ・著名な先生方の新聞、テレビ等マスコミへの露出を増やして、学校をPRするのも一つの方法ではないかと考える。
- ・名物教授を発掘してはどうか。

#### <意見・提言:永田委員>

- ・高専のPR、知名度アップに更に取り組んで欲しい。
- ・HPがリニューアルされ、非常に見易い環境になったと思う。

#### <意見・提言:廣津委員>

HP、広報印刷物、ビデオなど一通りのメディアは活用されている事は理解できたが、個性というか独自性が感じられない。このようなメディアはそもそも高専に興味のないものにはあまり効果が見込めない。広報イベント（おもしろ実験大公開）への来場者が年々増加していることはいい傾向で、このイベントを今後活用、発展させていくことに掛かっていると思う。

#### <意見・提言:北口委員>

計画に対しての結果は、自己評価されている通り、良かったと思います。然しながら、“広報”の定義からすれば、計画されている内容は局所的すぎます。佐世保高専の広報に関し、全体的な広報のガイドラインを作り、一目で佐世保高専の広報活動や流れがわかり、

一人では佐世保高専の広報は出来るわけがないので、各々広報活動の責任所掌を明確にすべきです。

#### <意見・提言:才木委員>

- ・ホームページは驚くほど、充実していると思う。
- ・新聞ではよく高専がこういうことをしたという記事を見かけるが、TVではあまり見かけないようだ。TVはその日に放送され、翌日の新聞閲覧の動機づけともなる。TVへのさらなるPRが必要だと思う。

#### <意見・提言:朝永委員>

- ・いろいろな取り組みが行われていることが分かりましたが、もっと広報が行われてもよいのではないかと思います。少子高齢化、中高一貫校など学生の確保に難しい面が出てきますが、学校にアクセスしなければ確認できない情報のルートですから、一般のメディア（新聞・テレビ・放送・ミニコミ紙など）の利用を検討されたいかがでしょうか。

#### <回答>

広報活動全般に係わる問題として、(1) 広報活動の全体像の明瞭化（北口委員）、(2) マスコミメディア（新聞、テレビ等）の積極的な活用（高尾委員、才木委員、朝永委員）、及び(3) 佐世保高専の認知度（松山委員、高尾委員）に関するご意見とご要望を頂きました。以下にこれらの問題についてのご意見、ご要望に対する回答をさせていただきます。

(1) 「佐世保高専の広報活動の全体像が見えにくい」とのご指摘がありました。確かに佐世保高専全体としての広報活動の流れが一目で把握出来るような整理が十分になされていないのが現状であります。例えば、広報担当部署として、一日体験入学、あるいは中学校や工業高校に出向いての本校の説明会等は教務主事室、文化祭・高専祭等は学生主事室、公開講座や各種イベントへの製作物の出展等は各学科、出前授業や企業向けのシーズ集の作成等は総務課企画係、HP や広報誌、おもしろ実験大公開等は広報委員会などのように、それぞれの部署で個々ばらばらに広報活動を行っています。これらを整理し、広報活動の流れが一目で分かるような、例えば広報の流れマップやこれに類するようなものを作成すれば、広報活動の全体像や各部署間の相互関係が明らかになることはもちろん、広報活動の効率化や改良点の明確化のためにも有益なことであり、今後検討すべき問題であると考えます。

(2) 現在、上記の「おもしろ実験大公開」に関して言えば、新聞、テレビ、ラジオ、ライブ佐世保等のメディアを十分活用した広報を行っています。その他の広報イベント、例えば文化祭・高専祭、公開講座、出前授業等は、テレビやライブ佐世保等を利用した広報はしてはいますものの、ご指摘のようにこれらのメディアの利用度が貧弱であることは否めません。今後は限られた広報活動予算の中で、最大の広報効果が得られるようなマス

コミ利用法を、広報委員会をはじめとした各部署で知恵を出し合い、鋭意検討して行きたいと思います。

(3)「佐世保高専に関心を持たせる方法として、HP が重要なツールであることは言をまたないが、その他にも関心を持たせる方法を考える必要があるのではないか。佐世保高専の特徴がまだ県民に浸透していない感がある（松山委員、高尾委員）」とのご意見を頂きました。このことは大きな問題であり、広報委員会のみならず本校全教職員一丸となってこの問題に取り組み、広報活動における広報内容の一層の充実化や広報のあり方などについてより詳細かつ具体的な検討を行い、実行に移していくことが肝要であると考えます。

最後に、HP に関するご意見とご要望として、リニューアルした HP に対して高く評価して頂いた委員（永田委員、才木委員）もございましたが、有意義なご指摘も頂きました。その中で、「HP の閲覧対象者を意識した HP の作成、あるいは構成を考えるべきである」とのご意見（末岡委員）がありました。全くごもっともなご意見であり、今後広報委員会でご指摘の問題についての検討を行い、より一層直帰率の低い HP を目指し、改善を重ねていきたいと考えます。

## 項目7. その他

### <意見・提言:池田委員>

評価に際し、現地視察（施設、研究状況、生徒生活状況等）もあれば嬉しいです。

### <意見・提言:高尾委員>

・委員会の説明において、各先生方から丁寧なご説明をいただいたのであるが、文章主体でなく、もっと写真等の映像媒体を使った説明をしていただいた方が更に理解しやすくなると感じた。

### <意見・提言:永田委員>

企業の場合は3Sの視点（会社（経営）満足度として学校経営・運営、顧客満足度として入学者と父兄、従業員満足度として先生方）が重要である。HP等でもその観点から手を打たれていることが見られるが、更に各々の視点から課題を抽出しその解決方法を内部・外部で今後も継続的に議論して対策を打って頂ければと思います。

### <意見・提言:北口委員>

佐世保高専創立50周年記念式典を大々的に行っていただき成功させて欲しいと思います。今回の外部評価員の意見で集中的に対処すべき内容を明確にして、実行に移せば、50周年



式典の成功への道が開けると思います。

**<意見・提言:才木委員>**

・初めて外部評価委員をさせていただいて、高専ではこんなに手塩にかけ、丁寧に学生を育てておられるんだと実感できました。校長先生以下、教職員みなさまに敬意を表します。中高一貫教育が注目されるなか、その先鞭をつける形で、旧制中学の名残のある5年制というシステムを採用した高専の存在感は、全入時代を迎えレベル低下が指摘される大学と好対照をなし、ますます大きくなっていくのではないかと考えています。満足に挨拶も、会話もできないような若者が氾濫している今日、高専が目指す教科だけでなく、寮生活などで鍛えられた全人教育が真価を発揮する時だと思います。高専の存在感は燻銀ではないでしょうか。

## 特に評価できる点

### <末岡委員>

現代 GP などの外部資金を獲得して高専特有の教育を推進していることは高く評価できる。特に、中国との交流及び地域連携に努力されている。これを留学生 30 万人計画による留学生教育と日本人学生の国際化に、教育システムとして利用できないか検討する時期ではないか。

現代 GP など、外部資金獲得が終了した後の自立化は重要な問題である。自立化のためのシステム構築が必要である。

### <池田委員>

早期専門教育によって、立派な卒業生が育ち、社会で活躍している。

### <松山委員>

広報活動や部活の活発さです。部活動は活発になればなるほど、学校全体に活気が出てきます。

### <高尾委員>

・教育・研究ばかりでなく、学生の生活指導及び地域社会への貢献など学校側の負担は、増すばかりと考える。その限られた時間のなかで、多くのことに取り組みようとされている学校側の姿勢に対して感銘を受けた。

### <永田委員>

先生方の誠実で真剣に取り組まれている教育とその実績。

### <廣津委員>

- ・教育体系にはほぼ完璧で、問題点は見受けられない。
- ・教員の方々のご努力には頭が下がる思い。

#### <北口委員>

- ・進級率が九州内他高専に比べ非常に高い事
- ・専攻科修了生に対する評価
- ・設備が充実した寮

#### <朝永委員>

- ・キャリア教育支援、学生支援GP等の学生の生活を含めた支援体制
- ・海外留学経験の実施

## 特に改善を要する点

### <末岡委員>

教育には良い教員が必要であることは当然であるが、有能な教員だけでは良い教育はできない。教育システムを如何に構築するかが重要である。

入学志願率の向上、特に女子学生の志願率向上の対策を行う必要がある。

学位授与機構から学士を確実にもらえるように教員は努力せねばならない。

### <松山委員>

明るい雰囲気が必要です。校舎等が明るくなれば生徒も明るくなります。お金の話になつてしまいますが。

### <高尾委員>

広報活動において、マスコミ等をもっと活用するなど PR に努めるべきと考える。

### <高尾委員>

特に無いが、地元企業との連携をもう少し密にお願いしたい。

### <廣津委員>

産官学交流。特に産業界との交流が必要かでは。過去のように産業界から高専へ人材の派遣ができれば早いと思うが、簡単ではない。

### <北口委員>

・佐世保高専の広報に関する全体像を示す資料が必要。広報を高める→優秀な学生を集める事が出来ると信じています。

・図書館の充実とその活用。

・佐世保高専運営に対しての「経営」的な方針を加えて結果を追求して頂きたい。キーワードは、顧客（学生）主義、顧客満足度、資産価値、P/L、B/S 等と思われます。

<朝永委員>

- ・地域連携活動、PR 活動

## その他の提言・意見等

(※本校の将来に向けてのご提言・ご意見等がありましたらご記入願います。)

### <末岡委員>

- ・1 教員が学術論文へ毎年 10 件以上投稿しているというのは本当ですか。
- ・大学への編入学に大きな変更が生じる可能性があります。大学において、現員を定員の 110%以内とする強い要請（強制）が科せられます。大学では学生の定員オーバーの要因として、定員を超えた入学者数・編入学者数および留年者数があります。さらに、大学院に関しても、定員オーバーを 110%に規制することが文科省から宣言されています。これらの事情変化を高専としてどうするのか、大学と高専のリンクの仕方を再検討する必要があります。

### <松山委員>

今後とも、生徒の交流をしていければと思っています。

### <高尾委員>

- ・女子学生の比率が低いと考えられるので、出前授業等を通じて、理科系のおもしろさを小中学生にアピールしていただき、今後、女子学生の入学を促進していただきたい。

### <永田委員>

- ・繰り返しになるが、地元企業への就職率を1%ずつでも高めて欲しい。そのためには、企業との共同研究や定期的訪問、意見交換を増やす活動からかと思う。必要であれば県財団として協力は惜しまない。
- ・本科 4、5 年生と専攻科で地域に根ざしたコースの開設をお願いしたい。特に、「船舶工学」など。地元企業の中でも造船に関わる企業も多く経済の波は確かにあるが、確実にその素養・基礎を有した学生のニーズは高い。(自動車のハイブリット化そして燃料電池化の流れは造船への展開されてくることが予想され確かな基礎力と設計ほか高度化;3DCAD などがポイントになってくる)

### <廣津委員>

人材交流の一環として、例えば修士号を持つ社員を 1 年間の講師、助手として受入れが

できないか。また、逆に、高卒社員を学生として4年次に入学させることはできないか（会社入社後3年位、20歳前後の社員）。

地元への就職者が少ない状況であるが、Uターン希望者はかなり多いのではないかとこの実感がある。OB会などで仲立ちができれば、二次的ではあるが地元就職者がかなり増えるのではないかと思う。

### <北口委員>

受験理由や県内工業高校との連携事業に関しては、佐世保高専の「強み」です。もっとアピールする必要があります。

佐世保高専の価値を高めるため、OBのネットワークは必要不可欠です。OBの方の頑張り・実績があるからこそ、高専卒業後の恩恵を受ける事があります。卒業したOBでも技術士取得者はいます。OBネットワークを構築して、佐世保高専の強み、としてアピールして欲しい。

学生は、地元就職に関し興味が非常に薄いと思います。何某かの理由があり、地元就職に注力するよりは、長崎に戻る際にスムーズに就職が出来るシステムを確立すべきだと思います。

色々な目標は数字的な判断材料を加えないと結果が明確でなく、PDCAの循環が出来ません。目標・指針等については、数字的な目標を追加下さい。

### <朝永委員>

・地域の企業や団体と共同研究を行うような地域に貢献する佐世保高専の一つの顔を作っていく必要があると思います。

・技術系教育機関として、現場と最新技術と十数年先の基礎技術が学生に提供できるような学業の場となってもらいたいと思います。

・マネジメント能力の向上の部分にも意識してもらいたい。技術経営能力的な、総合的な視野を持つマネージャーとしての基礎的な教育なども必要ではないでしょうか。





# Ⅲ 外部評価委員会資料

# 佐世保工業高等専門学校

## 外部評価委員会

平成21年3月17日(火)

### 各種評価への対応

- ・機関別認証評価(大学評価・学位授与機構) → 高専教育  
H14年度学校教育法改正、H16年度施行、**H18審査済**
- ・専攻科審査(大学評価・学位授与機構) → 学士レベル  
H9年度設置、H14年度再審査済、**H19年度審査済**
- ・技術者教育認証(JABEE) → 技術者教育  
H16年度受審、H17年度認定、**H21受審予定**
- ・教員表彰(学内、高専機構)：毎年度 → FD  
自己評価、相互評価、学生の授業評価
- ・独立行政法人事業年度評価：毎年度 → 高専機構の一機関
- ・外部評価(外部評価委員会) → 社会の目  
H15年度実施済、**H20年度実施**

### 佐世保高専の自己点検評価と外部評価

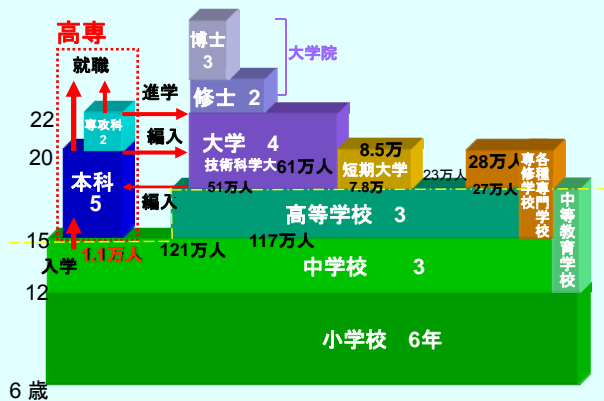
- H 5.3 「佐世保高専の現状と課題  
——自己点検・評価に向けて」
  - H12.3 「グローバルスタンダード時代における  
個性的技術者教育  
——自己点検・評価報告」
  - H15.5 自己点検・評価報告書
  - H16.3 外部評価委員会
  - H16.4 独立行政法人国立高等専門学校機構  
第1期中期目標・中期計画(H16~H20)
- H21.3 外部評価委員会**

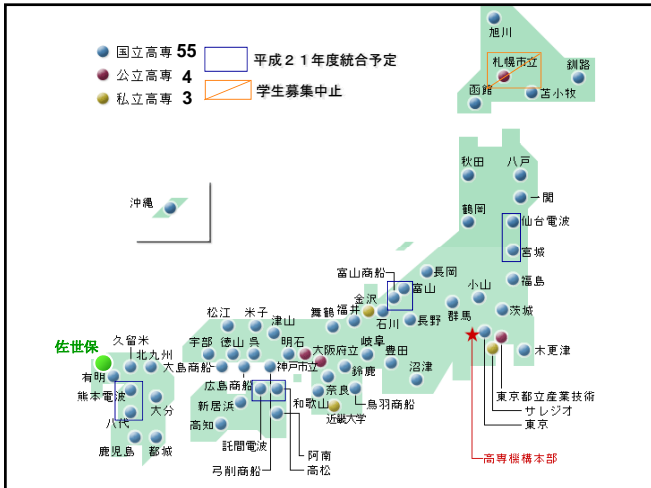
### Contents

- ・高専制度および高専教育の特徴
- ・佐世保高専の概要
- ・佐世保高専の中期計画の取組み

### 高専制度及び高専教育の特徴

### 高専の位置づけ：早期専門教育を行う高等教育機関





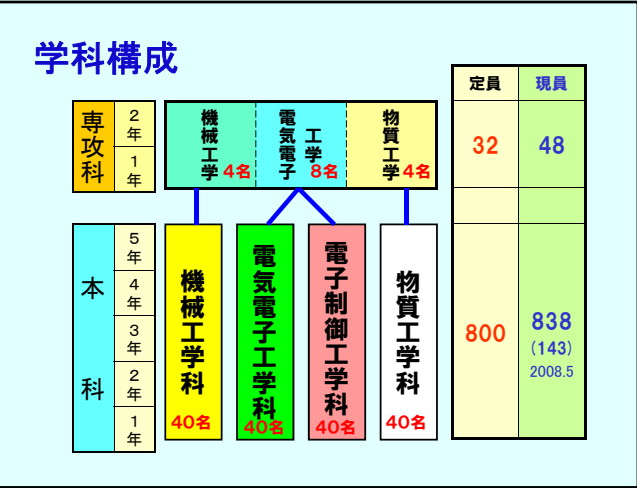
## 高専の特徴 実践的で創造力のある人材育成

- 早期専門教育を行う高等教育機関 (15~20歳~22歳)
- 5年一貫教育における専門科目と一般教養科目のくさび型カリキュラム
- 大学受験のないゆとりの中での体験的学習 (実験・実習) の重視した実践的教育
- 課外活動および学寮生活における人間教育  
(自主・自立, 自律の精神、社会性を養う)
- 高い求人倍率 ← 実践的教育

## 佐世保高専の概要

- ### 佐世保高専の沿革 (1)
- 昭和37年 4月 創設 (3クラス、120名/学年)  
機械工学科 (2クラス/定員80名)  
電気工学科 (1クラス/定員40名)
  - 昭和41年 4月 工業化学科 (定員40名) 増設 (160名/学年)
  - 昭和63年 4月 機械工学科 1クラスを 電子制御工学科 に改組 (4学科体制)
  - 平成 3年 4月 工業化学科 を 物質工学科 に改組
  - 平成 9年 4月 専攻科設置  
機械工学専攻 (定員4名)  
電気電子工学専攻 (8名)  
物質工学専攻 (4名)
  - 平成16年3月 第1回外部評価

- ### 佐世保高専の沿革 (2)
- 平成16年4月 独立行政法人国立高等専門学校機構の設置する機関となる
  - 平成17年4月 電気工学科 を 電気電子工学科 に名称変更
  - 平成17年5月 JABEE技術者教育プログラム認定 (平成20年度まで)
  - 平成18年度 機関別認証評価 (大学評価・学位授与機構)
  - 平成19年4月 事務部3課制 (庶務・会計・学生) から 2課制 (総務・学生) へ
  - 平成19年度 専攻科教育の実施状況等の調査
  - 平成20年度 外部評価



### 佐世保高専の学生数

女子学生数 (内数)

本科生	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械	43(2)	40(0)	42(1)	41(0)	43(5)	209(7)
電気	45(4)	40(1)	44(4)	46(7)	36(2)	211(18)
制御	43(4)	41(6)	44(3)	41(7)	44(5)	213(25)
物質	42(19)	41(17)	41(23)	36(18)	45(16)	205(93)
合計	173(29)	162(24)	171(31)	164(32)	168(27)	838(143)
留学生			1(0)	2(0)	3(2)	6(2)

専攻科生	1年	2年	計	
機械工学専攻		6(0)	5(0)	11(0)
電気電子工学専攻		12(2)	14(1)	26(3)
物質工学専攻		5(4)	6(0)	11(4)
合計		23(6)	25(1)	48(7)

卒業生： 本科 5,859名 専攻科 194名

### 佐世保高専の教職員

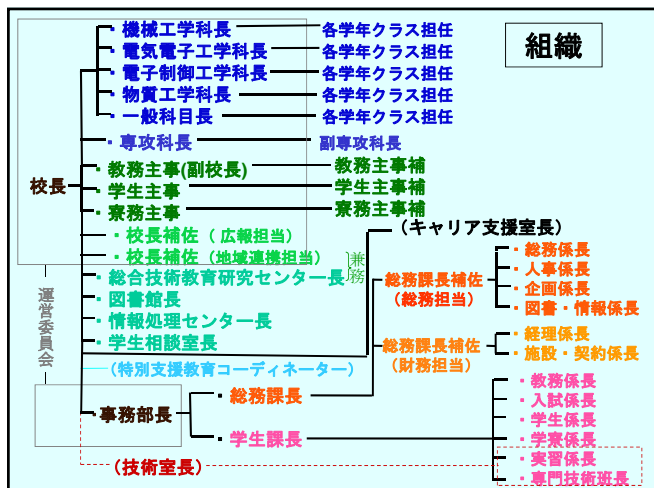
(校長、事務部長を除く)

#### 教員

学科	教授	準教授	講師	助教	助手	計	非常勤
機械	4	4	2	1	1	12	5
電気電子	2	5	3	0	1	11	2
電子制御	4	5	1	1	1	12	2
物質	5	5	1	1	0	12	5
一般科目	7	9	4	0	0	20	21
計	22	28	11	3	3	67	35

#### 職員

課	常勤	非常勤	計
総務課	21	6	27
学生課	22	8	30
専門技術班・実習係	12	2	14 (内数)
( )内は事務系職員	43 (31)	14 (12)	57 (43)



### 教育理念

本科： 5年間に亘る一貫教育を通して、ものづくりの基盤を支える技術者に要求される**基礎学力**と**高い専門知識**を身につけ、**創造性と実践力**に富み、**豊かな教養**と**人間性**、**国際性**を備え、**社会に貢献**できる人材を育成する

専攻科： **他分野の専門的基礎**をも学ぶ**融合型教育**に加えて、**7年間に亘る一貫教育**を行い、**複眼的視野**を持つ人材を育成する。

### 佐世保高専中期目標・中期計画 (平成16年度～20年度)

#### 佐世保高専中期目標・中期計画の重点項目

1. 教育の一層の充実
2. それを支える**研究活動**の活性化と高度化
3. 教育・研究における**地域社会との連携**の強化
4. 情報発信と**広報活動**の強化

#### 3つのキーワード **調和・融合・連携**

1. **調和**の取れた教育
2. **融合**研究に基づく**教育研究活動**
3. **地域連携**による**社会貢献**

## 1. 教育の一層の充実

### ★ 調和の取れた教育

- ・知育・徳育・体育のバランス：課外活動、学寮
- ・座学と体験学習とのバランス：実験実習 30～40%
- ・今後の課題：知識伝達型教育と知識活用型教育の調和

### ★ JABEE(技術者教育認定制度)：平成16～20年度「複合型もの創り工学」

### ★ 文部科学省大学等改革推進事業による改善

- ☆ 国際性の涵養：平成17～20年度現代GP「日中相互交流による実践的若年技術者の育成」
- ☆ キャリア教育：平成19～21年度現代GP「PBLを柱としたキャリア教育システムの構築」
- ☆ 特別支援教育：平成19～20年度社会ニーズ学生支援「高等専門学校での特別支援教育事業推進」

## 2. 研究活動の活性化と高度化

### ★ 融合型研究の奨励：校長裁量経費(50万～300万円) 平成16～20年度、24件、総額22,940,000円

### ★ 国際協同研究体制の推進

平成19年6月北京大学化学&分子工程研究院  
平成19年8月スウェーデン王立工科大学情報通信工学部

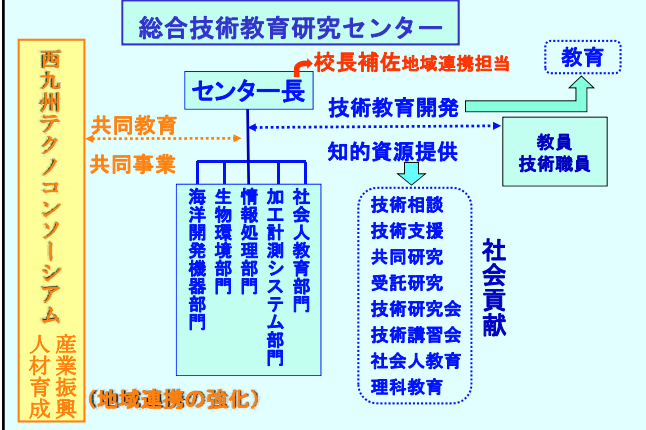
### ☆ 科研費

低調気味(全国高専の平均よりやや高い)  
教育GPに力をいれた結果

対策：科研費申請の奨励：インセンティブ経費

### ☆ 共同研究、受託研究、奨学寄付金：増加傾向

## 3. 教育研究における地域社会との連携強化



## 4. 広報活動の強化

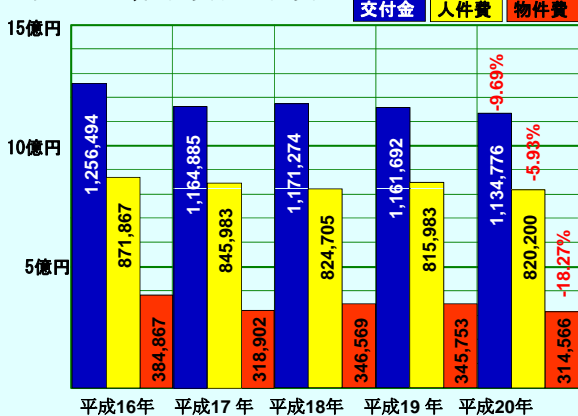
### 広報担当校長補佐を置く

### 運営委員会メンバー

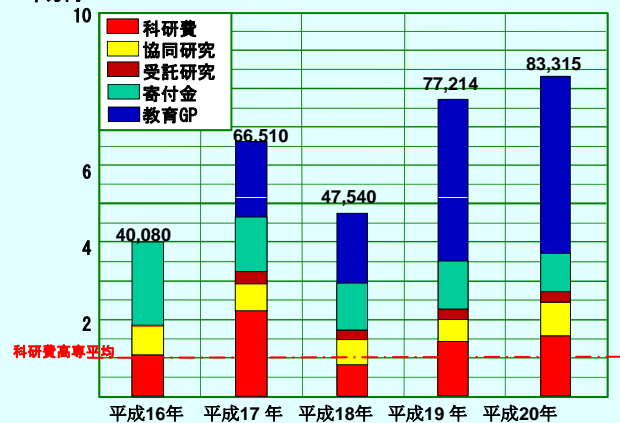
### 広報活動の統括

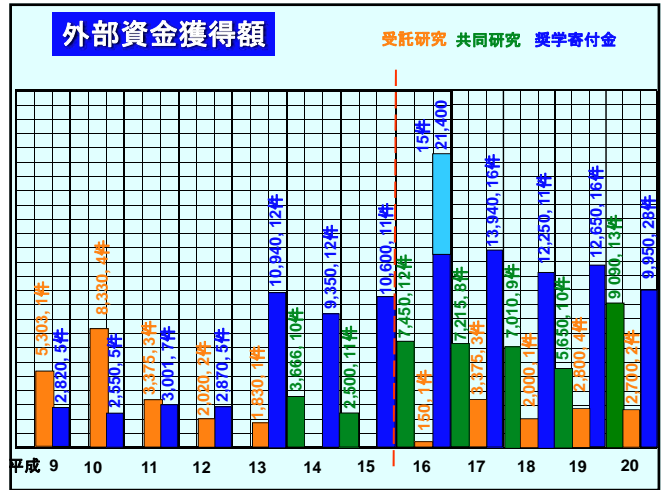
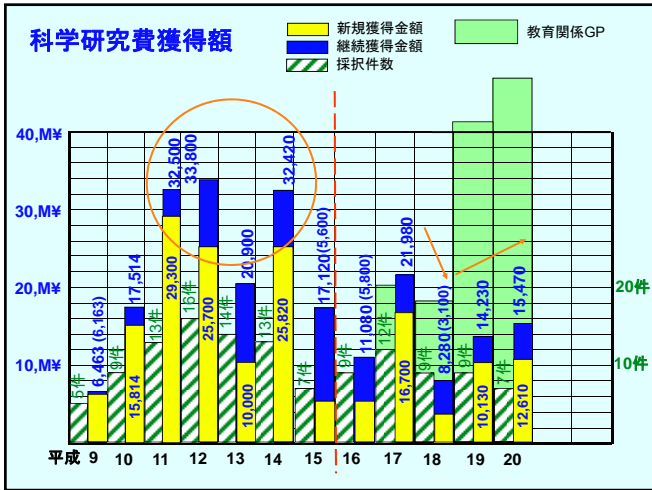
- ☆ ホームページの充実
- ☆ 広報印刷物の改善
- ☆ 広報ビデオ改善  
学校要覧、沖新通信、
- ☆ 広報イベント  
おもしろ実験大公開

## 運営交付金、物件費、人件費



## 外部資金





完

国立佐世保工業高等専門学校

H20年 学外部評価委員会  
(教務主事室関係)

学生(本科)の教育について

1. 教育目標(本科)
2. 入学者選抜
3. 教育課程
4. 卒業生の進路

1. 教育目標(本科)

- 1)ものづくりや創造する喜びと学ぶ楽しさを早期に知ることを通して、明確な**職業意識**、**学習意欲**を養成する
- 2)高度科学技術を中核となって推進するための**基礎知識**と**基礎技能**、**専門知識**を身につけ、自ら課題を探索し、解決できる能力を育成する
- 3)実験実習など体験学習を重視して、豊かな**創造性**と**実践力**を養成する

教育目標(本科)

- 4) **論理的な思考力**、**コミュニケーション能力**、**プレゼンテーション能力**を養成する
- 5)情報技術の進展に対応できるよう、全学科において**情報リテラシー**の向上をはかる
- 6) **豊かな教養と倫理観**を身につけ、**地球的な視野**で人類の幸福のために貢献できる能力を養成する

2. 入学者選抜

1. 推薦入試

- ・募集人員:各学科定員の**30%程度**
- ・出願資格:9教科の5段階評価の総計**110以上**
- ・推薦人数:**各学科2名**/1中学校
- ・判定:面接の結果と調査書の内容を総合

2. 学力入試

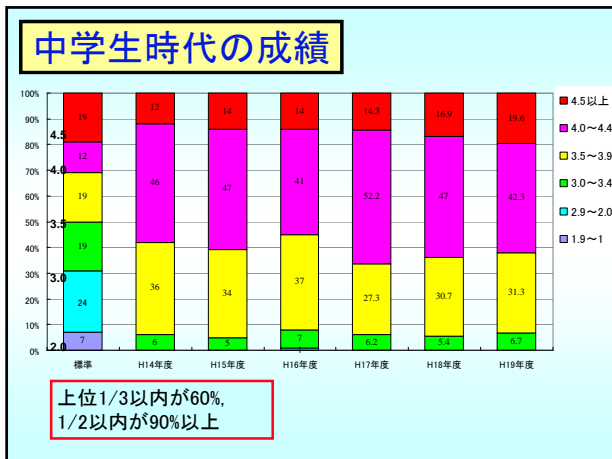
- ・5教科の総合得点と中学校の調査書による総合判定
- ・志望学科:第3志望まで

3.入試対策

- ・中学校訪問:5月中に離島を除く約70校訪問(教務主事室:17~20回)
- ・離島中学校訪問:11月中に壱岐、対馬、下五島の中学約20校訪問
- ・高校説明会 中学生及び保護者対象 6月~11月に約25~30回
- ・学校説明会8回実施(H19年度から佐世保会場で2回開催)
- ・一日体験入学(中学2・3年生対象)8月実施(H20年度から全学科の体験可能→ミスマッチ減少のため)
- ・入試懇談会(中学教員、塾の先生対象)9月~10月に4回実施

最近の5年間の競争率

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
機械	2.1	1.7	2.8	1.9	1.2
電気	1.8	2.4	1.7	1.7	2.1
制御	1.9	2.0	1.3	2.5	1.9
物質	1.5	1.9	1.9	2.3	2.3
本校全体	1.8	2.0	1.9	2.1	1.9
九州平均	2.01	1.94	1.86	1.86	1.83
全国平均	1.92	1.86	1.82	1.81	



### 佐世保高専受験生の受験理由

H18年度、( )内はH17年度

将来の仕事を考えて	24.4 % (24.3%)
自分の好きな仕事ができるから	18.5 % (20.5%)
就職率が良いから	16.3 % (15.1%)
教育内容が良いと思ったから	13.7 % (14.7%)
大学へ編入学の道があるから	4.5 % (5.2%)
NHKのロボコンに刺激されて	4.2 % (4.2%)
一日体験入学が良かったから	6.2 % (3.7%)
大学受験の勉強をしなくて良いから	2.7% (3.4 %)
先輩が佐世保高専に入っているから	2.3% (2.7 %)
大学より早く社会にでれるから	3.1% (2.3%)
大学に比べて学費が安いから	1.8% (1.8 %)
その他	2.3% (2.1 %)

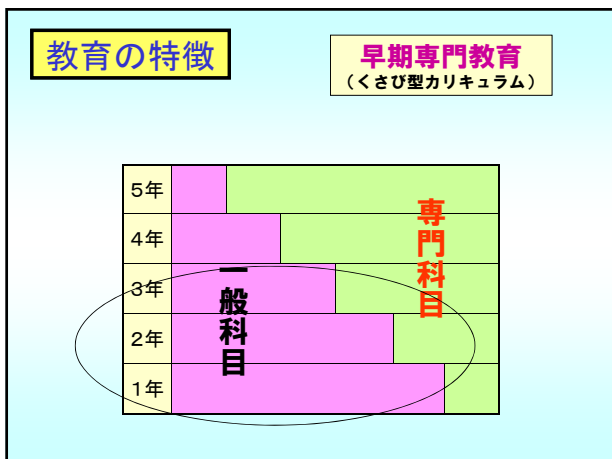
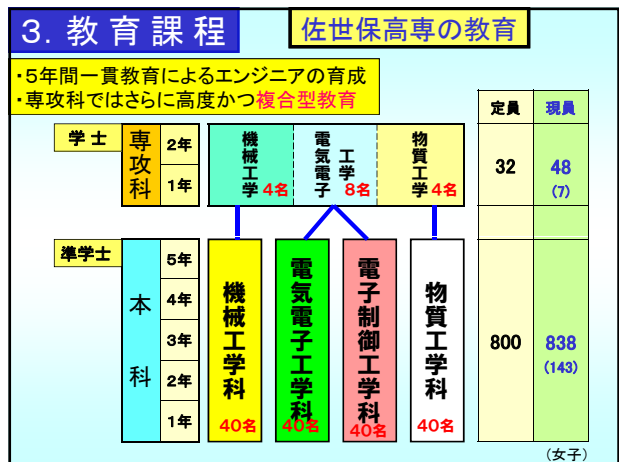
### 長崎県内工業高校との連携事業協定書に調印

工業科を設けている県内9高校(公立7校、私立2校)の推薦による編入学制度の創設(高校の成績が上位30%でジュニアマスターの資格がシルバー以上)→H20年度に4名が推薦で合格

長崎県と県内地場企業による奨学金の返済支援に関する協定(県内企業に3年以上勤務した場合、本校4、5年次に受けた奨学金の半額を県が補助、残りの半額を企業が補助)

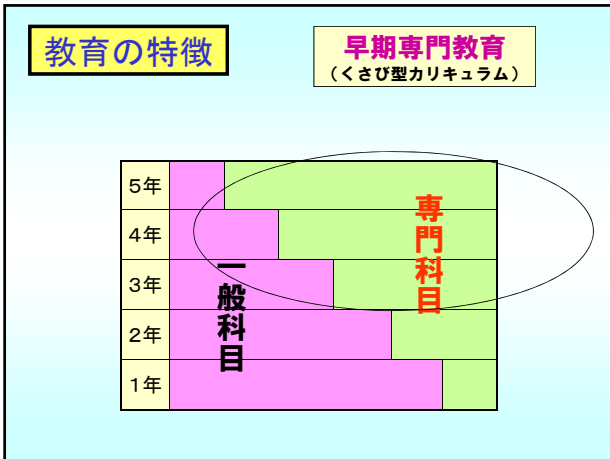
県内工業高校と連携の一環として、第6回 知的財産教育セミナー in 佐世保を長崎県佐世保工業高等学校と共同で開催した。(2008年度の知的財産教育推進協力校に高校とも選定された。)

金子長崎県知事と井上校長の調印  
H20年1月29日

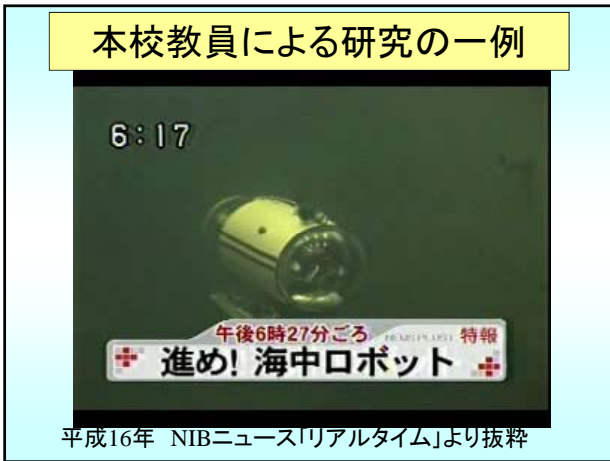


- ### 佐世保高専の教育
- 有能な教員によるユニークな低学年教育(1~3年)
1. 博士号を持つ一般科目教員(20名中9名)  
(博士号を持つ教員による論理的な指導(体育や社会、国語を含む)→ 学生の理解力向上)
  2. 徹底した数学教育(6名の数学教員)
  3. TOEICスコア970点以上の日本人英語教員(Best of JALT2007受賞: 全国語学教育学会)、ネイティブスピーカー(米同等)の非常勤教員
  4. 九州芸術文学賞受賞者による国語教育
  6. 豊富な海外留学経験教員(一般科目教員20名中7名以上)
  7. 低学年からの専門教育

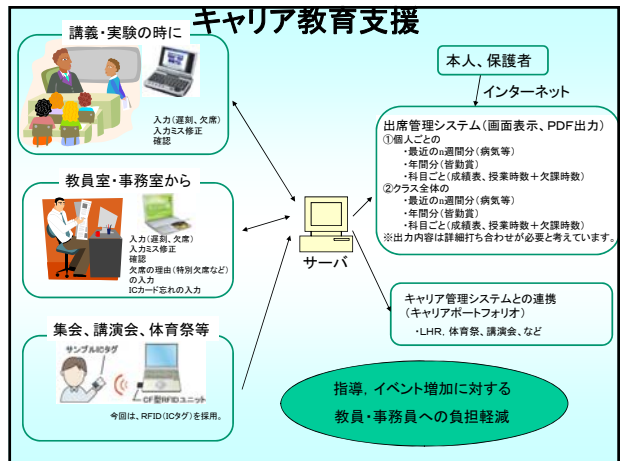
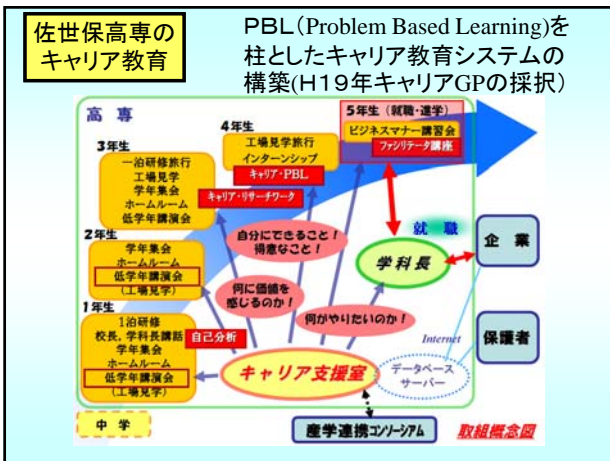


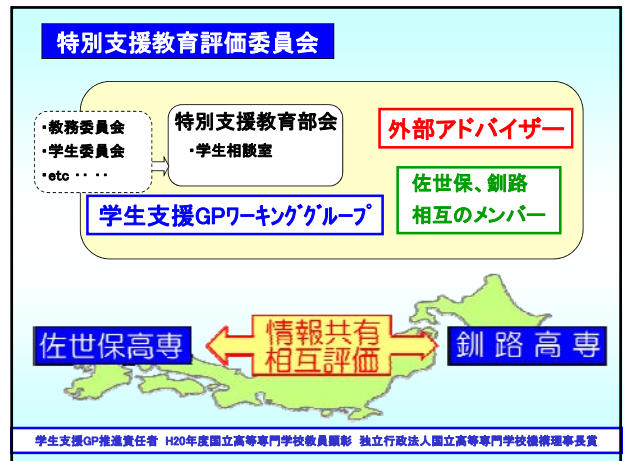
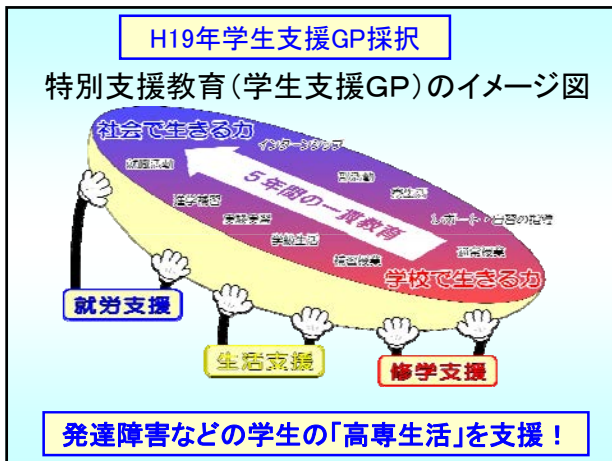


- ### 佐世保高専の教育
- ### 優秀な研究者による特徴的な専門教育
1. 専門教員の大半が**博士号取得者**  
(学術論文へ**毎年10件以上の論文投稿**)  
The IUMRS International Conference in Asia 2008 YOUNG RESEARCH AWARDを高専で唯一人受賞
  2. 九州大学等との共同研究
  3. 多くの企業経験者→産業界とのマッチング
  4. 技術士等の資格を有する教員→資格を持つ学生の増加
  5. **豊富な海外留学経験者**→グローバルな学生の育成



- ### 高専の短所と本校の対策
1. **学歴社会における位置づけ**  
知名度が低い, 少数派  
↓  
多様な進路, 学歴社会から実力社会へ
  2. **早期専門教育のリスク**  
ミスマッチング(不適合)  
↓  
きめ細かな指導体制(副担任制)  
学生相談(支援)室、キャリア教育、転科制度

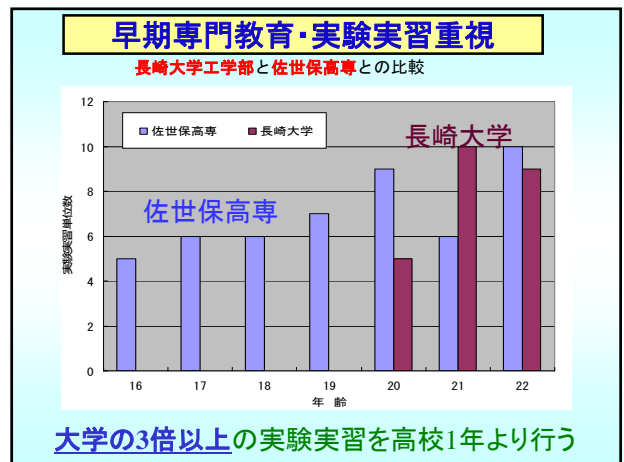




**九州内高専の退学者・留年者・進級率(H19年)**

高専名	退学者数	留年者数	進級率
有明高専	41	65	90%
久留米高専	19	48	92%
大分高専	19	29	94%
都城高専	27	15	95%
北九州高専	20	29	95%
八代高専	29	13	95%
<b>佐世保高専</b>	<b>11</b>	<b>8</b>	<b>98%</b>

九州内の高専で進級率がトップ(退学者・留年者数が最小)





## H19年度本科4年生による中国工場見学

若年者との交流を深めるために、本校4年生(電気電子工学科)が、上海・厦門地区の工場見学を行った。(初めての海外工場見学)その際、厦門理工学院との交流も行った。



工場見学



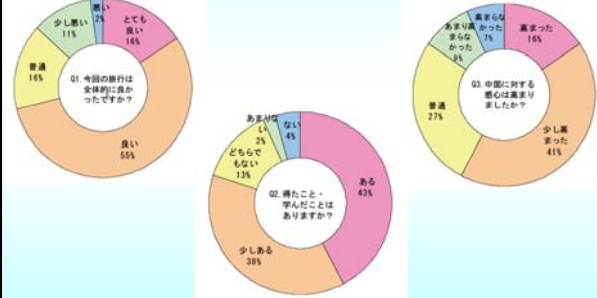
厦門理工学院



厦門散策

## 交流校との学生相互交流(4年生)H20年

H20年度は、機械工学科及び電気電子工学科の本科4年生51名が、上海・厦門地区の工場見学を行った。4年生に対してアンケート調査を行った。結果の一例を以下に示す。全体として好印象を持ったようである。



## 日中相互交流の成果報告活動

- 4年間の取り組み成果、工学教育などに論文発表(8件)、高専機構主催教育研究集会などに口頭発表(26件以上)を行った→今年度分論文(5件)と口頭発表(13件)は2008年度成果報告書のpp.129-130 + 大分高専(3/7)と宇部高専(3/25)で現代GP招待講演
- 第11回(平成20年度)九州工学教育協会賞受賞「日中相互交流を通じた国際性に富む実践的技術者の育成」平成21年2月17日

## 海外の大学との学術交流協定締結

### 1. 厦門理工学院



H16年学術交流協定締結

### 2. スウェーデン王立大学



H19年学術交流協定締結

### 3. 北京大学



H19年学術交流協定締結

- 毎年専攻科生の相互交流(厦門理工学院)
- 希望者のスウェーデン王立大学への優先留学
- 北京大学との研究交流
- 承德石油専科学院と交流協定締結(H17)

## 資格取得で全国トップレベル

### 実績

- <文部科学大臣賞(団体賞)受賞>
  - 平成19年度「ラジオ・音響技能検定」10名合格
  - 平成18年度「デジタル技術検定」82名合格
- ※文部科学大臣賞は、平成15、16、18、19年度に受賞
- <技術士1次合格数 全国トップレベル>
  - 平成18年13名、平成19年度は13名が合格(4年生4名、5年生5名、専攻科生4名)13名、平成20年度は23名(4年生1名、5年生9名、専攻科生13名)合格との数は、全国高専の会合でも報告がなく、全国1位と言える。
  - 技術士は、技術士法に基づく日本の国家資格。技術士の称号を使用して、登録した技術部門の技術業務を行うことができる。

## 4. 卒業生の進路

### 求人倍率の比較

年度	一般新卒大学生	工学系大学生	佐世保高専卒業生
平成16年	0.83	2.7	10.0
平成17年	0.95	3.6	13.8
平成18年	1.06	4.8	18.9
平成19年	1.04	5.2	30.2
平成20年			20~35

(リクルート) (厚生労働省) (本校独自調べ)

毎年、新卒者の10~35倍という高い求人倍率

## 就職先の例

**運輸**:トヨタ自動車、日産自動車、本田技研、ANA、JAL、JR東海、JR西日本、JR九州  
**鉄鋼**:新日鉄、神戸製鋼、川崎製鉄  
**電機メーカー**:松下、東芝、日立、ソニー、三菱電機  
**重工業**:三菱重工、富士重工  
**精密機械**:ニコン、キヤノン、コニカミノルタ  
**情報通信**:NHK、NTT、KDDI、京セラ、任天堂  
**電力会社**:東京電力、九州電力、中部電力  
**食品**:グリコ、森永乳業、ハウス食品、……等

## 佐世保高専の就職数

	求人会社数	求人数	就職率	長崎県	九州内
平成16年	271	843	100%	14%	33%
平成17年	361	1160	100%	6%	31%
平成18年	451	1455	99%	17%	39%
平成19年	720	1712	100%	18%	40%

就職率ほぼ100%  
 地域に根ざした教育→**地元就職率高い**

## 進学先

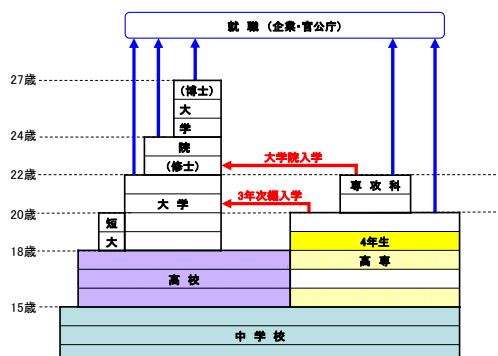
- 1)東京大学、京都大学、九州大学→編入学試験  
(倍率2倍以下:一般入試倍率は2.9倍)
- 2)長岡技大、豊橋技大→推薦編入制度有  
(高専から多くの編入生)
- 3)熊本大学→推薦編入制度有、毎年多く編入
- 4)長崎大学、佐賀大学、大分大学、鹿児島大学等、九州内の多くの大学にも推薦編入制度有  
→40名のクラスの上位10~15番以内で推薦可能  
H20年度 九州大学大学院総合理工学府に専攻科生が新推薦制度で2名進学

## 専攻科の教育について

外部評価委員会資料(専攻科)

## 日本の教育制度

Education System in Japan



## 中期目標

- (1) JABEE対応カリキュラムに基づく複合・融合型教育
  - ・ PBL教育、総合試験、TOEICスコアの基準
- (2) 特別研究
  - ・ 学協会発表の義務づけ
- (3) 学士取得
  - ・ 合格率95%以上を達成
- (4) 地域連携・地域貢献
  - ・ 長期インターンシップ

## 専攻科における教育体制 (1)

Education System in Advanced Engineering Course

- ・ 日本技術者教育認定機構 JABEE対応  
JABEE: (Japan Accreditation Board for Engineering Education)  
カリキュラム: 「複合型もの創り工学」

- 3専攻: 機械(4)、電気電子(8)、物質(4)
- (1) 各専門分野での深い専門性
  - (2) 複合型教育による複眼的な問題解決能力・創造性
  - (3) 地球的視野での倫理観

## 専攻科における教育体制 (2)

Education System in Advanced Engineering Course

### ・ 専攻科の教育の特徴

- (1) 少人数による高度専門教育
- (2) 人文・社会科学関連教育
- (3) 共通基礎科目
- (4) 複合・融合型教育
  - 総合創造演習 (Creative Engineering Practice)
  - 総合創造実験 (Creative Engineering Experimentation)
  - 技術者総合ゼミ (General Seminar for Engineering)

### 総合創造実験

各専攻の基礎実験を他専攻の学生が体験する。自専攻の学生は、実験の準備・指導までの全てを担当する。

### 総合創造演習

3専攻からメンバーを構成したグループにわかれ、課題テーマに対応したマイコンロボットを製作し発表する  
(PBL: Problem Based Learning 教育)



### 主なルール

- ・ 要設置者 (ピンポン) を教出エリアへ運ぶ
- ・ 自動操縦エリアではロボットは自動操縦されなければならない
- ・ 自作の動力源 (化学電池) を使用する

平成18年度総合創造演習  
発表会の様子

### 技術者総合ゼミ

課題発表やディベート、また学内外からの講師による講演会を実施する。

平成19年度技術者総合ゼミ 予定表

No.	予定日	内容	所属
11	4月6日	演習科デザイン、卒中の実施要領	
12	4月13日	演習科卒業生、自己紹介の発表	
13	4月20日	成功体験セミナー(卒業生)	
14	4月27日	講演会(卒業生の学友会)	NTGキャリア教育
15	5月4日	キャリア教育	
16	5月11日	特別研究中間報告(卒業生)	
17	5月18日	特別研究中間報告(卒業生)	
18	5月25日	企業経営者講演会(東海電力・北口社長)	NTGキャリア教育
19	6月1日	本校学生取組者による講演会(廣田先生・M西川先生)	NTGキャリア教育
20	6月8日	特別研究最終報告(卒業生)	
21	6月15日	特別研究最終報告(卒業生)	
22	6月22日	特別研究最終報告(卒業生)	
23	6月29日	特別研究最終報告(卒業生)	
24	7月6日	社会人基礎力講座(1/2)受講	NTGキャリア教育
25	7月13日	社会人基礎力講座(2/2)受講	NTGキャリア教育
26	7月20日	卒業生講演会(卒業生)	
27	7月27日	卒業生講演会(卒業生)	
28	8月3日	卒業生講演会(卒業生)	
29	8月10日	卒業生講演会(卒業生)	
30	8月17日	卒業生講演会(卒業生)	
31	8月24日	卒業生講演会(卒業生)	
32	8月31日	卒業生講演会(卒業生)	
33	9月7日	卒業生講演会(卒業生)	
34	9月14日	卒業生講演会(卒業生)	
35	9月21日	卒業生講演会(卒業生)	
36	9月28日	卒業生講演会(卒業生)	
37	10月5日	卒業生講演会(卒業生)	
38	10月12日	卒業生講演会(卒業生)	
39	10月19日	卒業生講演会(卒業生)	
40	10月26日	卒業生講演会(卒業生)	
41	11月2日	卒業生講演会(卒業生)	
42	11月9日	卒業生講演会(卒業生)	
43	11月16日	卒業生講演会(卒業生)	
44	11月23日	卒業生講演会(卒業生)	
45	11月30日	卒業生講演会(卒業生)	
46	12月7日	卒業生講演会(卒業生)	
47	12月14日	卒業生講演会(卒業生)	
48	12月21日	卒業生講演会(卒業生)	
49	12月28日	卒業生講演会(卒業生)	
50	1月4日	卒業生講演会(卒業生)	
51	1月11日	卒業生講演会(卒業生)	
52	1月18日	卒業生講演会(卒業生)	
53	1月25日	卒業生講演会(卒業生)	
54	2月1日	卒業生講演会(卒業生)	
55	2月8日	卒業生講演会(卒業生)	
56	2月15日	卒業生講演会(卒業生)	
57	2月22日	卒業生講演会(卒業生)	
58	2月29日	卒業生講演会(卒業生)	
59	3月6日	卒業生講演会(卒業生)	
60	3月13日	卒業生講演会(卒業生)	
61	3月20日	卒業生講演会(卒業生)	
62	3月27日	卒業生講演会(卒業生)	
63	4月3日	卒業生講演会(卒業生)	
64	4月10日	卒業生講演会(卒業生)	
65	4月17日	卒業生講演会(卒業生)	
66	4月24日	卒業生講演会(卒業生)	
67	4月31日	卒業生講演会(卒業生)	
68	5月8日	卒業生講演会(卒業生)	
69	5月15日	卒業生講演会(卒業生)	
70	5月22日	卒業生講演会(卒業生)	
71	5月29日	卒業生講演会(卒業生)	
72	6月5日	卒業生講演会(卒業生)	
73	6月12日	卒業生講演会(卒業生)	
74	6月19日	卒業生講演会(卒業生)	
75	6月26日	卒業生講演会(卒業生)	
76	7月3日	卒業生講演会(卒業生)	
77	7月10日	卒業生講演会(卒業生)	
78	7月17日	卒業生講演会(卒業生)	
79	7月24日	卒業生講演会(卒業生)	
80	7月31日	卒業生講演会(卒業生)	
81	8月7日	卒業生講演会(卒業生)	
82	8月14日	卒業生講演会(卒業生)	
83	8月21日	卒業生講演会(卒業生)	
84	8月28日	卒業生講演会(卒業生)	
85	9月4日	卒業生講演会(卒業生)	
86	9月11日	卒業生講演会(卒業生)	
87	9月18日	卒業生講演会(卒業生)	
88	9月25日	卒業生講演会(卒業生)	
89	10月2日	卒業生講演会(卒業生)	
90	10月9日	卒業生講演会(卒業生)	
91	10月16日	卒業生講演会(卒業生)	
92	10月23日	卒業生講演会(卒業生)	
93	10月30日	卒業生講演会(卒業生)	
94	11月6日	卒業生講演会(卒業生)	
95	11月13日	卒業生講演会(卒業生)	
96	11月20日	卒業生講演会(卒業生)	
97	11月27日	卒業生講演会(卒業生)	
98	12月4日	卒業生講演会(卒業生)	
99	12月11日	卒業生講演会(卒業生)	
100	12月18日	卒業生講演会(卒業生)	
101	12月25日	卒業生講演会(卒業生)	
102	1月1日	卒業生講演会(卒業生)	
103	1月8日	卒業生講演会(卒業生)	
104	1月15日	卒業生講演会(卒業生)	
105	1月22日	卒業生講演会(卒業生)	
106	1月29日	卒業生講演会(卒業生)	
107	2月5日	卒業生講演会(卒業生)	
108	2月12日	卒業生講演会(卒業生)	
109	2月19日	卒業生講演会(卒業生)	
110	2月26日	卒業生講演会(卒業生)	
111	3月5日	卒業生講演会(卒業生)	
112	3月12日	卒業生講演会(卒業生)	
113	3月19日	卒業生講演会(卒業生)	
114	3月26日	卒業生講演会(卒業生)	
115	4月2日	卒業生講演会(卒業生)	
116	4月9日	卒業生講演会(卒業生)	
117	4月16日	卒業生講演会(卒業生)	
118	4月23日	卒業生講演会(卒業生)	
119	4月30日	卒業生講演会(卒業生)	
120	5月7日	卒業生講演会(卒業生)	
121	5月14日	卒業生講演会(卒業生)	
122	5月21日	卒業生講演会(卒業生)	
123	5月28日	卒業生講演会(卒業生)	
124	6月4日	卒業生講演会(卒業生)	
125	6月11日	卒業生講演会(卒業生)	
126	6月18日	卒業生講演会(卒業生)	
127	6月25日	卒業生講演会(卒業生)	
128	7月2日	卒業生講演会(卒業生)	
129	7月9日	卒業生講演会(卒業生)	
130	7月16日	卒業生講演会(卒業生)	
131	7月23日	卒業生講演会(卒業生)	
132	7月30日	卒業生講演会(卒業生)	
133	8月6日	卒業生講演会(卒業生)	
134	8月13日	卒業生講演会(卒業生)	
135	8月20日	卒業生講演会(卒業生)	
136	8月27日	卒業生講演会(卒業生)	
137	9月3日	卒業生講演会(卒業生)	
138	9月10日	卒業生講演会(卒業生)	
139	9月17日	卒業生講演会(卒業生)	
140	9月24日	卒業生講演会(卒業生)	
141	10月1日	卒業生講演会(卒業生)	
142	10月8日	卒業生講演会(卒業生)	
143	10月15日	卒業生講演会(卒業生)	
144	10月22日	卒業生講演会(卒業生)	
145	10月29日	卒業生講演会(卒業生)	
146	11月5日	卒業生講演会(卒業生)	
147	11月12日	卒業生講演会(卒業生)	
148	11月19日	卒業生講演会(卒業生)	
149	11月26日	卒業生講演会(卒業生)	
150	12月3日	卒業生講演会(卒業生)	
151	12月10日	卒業生講演会(卒業生)	
152	12月17日	卒業生講演会(卒業生)	
153	12月24日	卒業生講演会(卒業生)	
154	12月31日	卒業生講演会(卒業生)	
155	1月7日	卒業生講演会(卒業生)	
156	1月14日	卒業生講演会(卒業生)	
157	1月21日	卒業生講演会(卒業生)	
158	1月28日	卒業生講演会(卒業生)	
159	2月4日	卒業生講演会(卒業生)	
160	2月11日	卒業生講演会(卒業生)	
161	2月18日	卒業生講演会(卒業生)	
162	2月25日	卒業生講演会(卒業生)	
163	3月4日	卒業生講演会(卒業生)	
164	3月11日	卒業生講演会(卒業生)	
165	3月18日	卒業生講演会(卒業生)	
166	3月25日	卒業生講演会(卒業生)	
167	4月1日	卒業生講演会(卒業生)	
168	4月8日	卒業生講演会(卒業生)	
169	4月15日	卒業生講演会(卒業生)	
170	4月22日	卒業生講演会(卒業生)	
171	4月29日	卒業生講演会(卒業生)	
172	5月6日	卒業生講演会(卒業生)	
173	5月13日	卒業生講演会(卒業生)	
174	5月20日	卒業生講演会(卒業生)	
175	5月27日	卒業生講演会(卒業生)	
176	6月3日	卒業生講演会(卒業生)	
177	6月10日	卒業生講演会(卒業生)	
178	6月17日	卒業生講演会(卒業生)	
179	6月24日	卒業生講演会(卒業生)	
180	6月31日	卒業生講演会(卒業生)	
181	7月8日	卒業生講演会(卒業生)	
182	7月15日	卒業生講演会(卒業生)	
183	7月22日	卒業生講演会(卒業生)	
184	7月29日	卒業生講演会(卒業生)	
185	8月5日	卒業生講演会(卒業生)	
186	8月12日	卒業生講演会(卒業生)	
187	8月19日	卒業生講演会(卒業生)	
188	8月26日	卒業生講演会(卒業生)	
189	9月2日	卒業生講演会(卒業生)	
190	9月9日	卒業生講演会(卒業生)	
191	9月16日	卒業生講演会(卒業生)	
192	9月23日	卒業生講演会(卒業生)	
193	9月30日	卒業生講演会(卒業生)	
194	10月7日	卒業生講演会(卒業生)	
195	10月14日	卒業生講演会(卒業生)	
196	10月21日	卒業生講演会(卒業生)	
197	10月28日	卒業生講演会(卒業生)	
198	11月4日	卒業生講演会(卒業生)	
199	11月11日	卒業生講演会(卒業生)	
200	11月18日	卒業生講演会(卒業生)	
201	11月25日	卒業生講演会(卒業生)	
202	12月2日	卒業生講演会(卒業生)	
203	12月9日	卒業生講演会(卒業生)	
204	12月16日	卒業生講演会(卒業生)	
205	12月23日	卒業生講演会(卒業生)	
206	12月30日	卒業生講演会(卒業生)	
207	1月6日	卒業生講演会(卒業生)	
208	1月13日	卒業生講演会(卒業生)	
209	1月20日	卒業生講演会(卒業生)	
210	1月27日	卒業生講演会(卒業生)	
211	2月3日	卒業生講演会(卒業生)	
212	2月10日	卒業生講演会(卒業生)	
213	2月17日	卒業生講演会(卒業生)	
214	2月24日	卒業生講演会(卒業生)	
215	3月2日	卒業生講演会(卒業生)	
216	3月9日	卒業生講演会(卒業生)	
217	3月16日	卒業生講演会(卒業生)	
218	3月23日	卒業生講演会(卒業生)	
219	3月30日	卒業生講演会(卒業生)	
220	4月6日	卒業生講演会(卒業生)	
221	4月13日	卒業生講演会(卒業生)	
222	4月20日	卒業生講演会(卒業生)	
223	4月27日	卒業生講演会(卒業生)	
224	5月4日	卒業生講演会(卒業生)	
225	5月11日	卒業生講演会(卒業生)	
226	5月18日	卒業生講演会(卒業生)	
227	5月25日	卒業生講演会(卒業生)	
228	6月1日	卒業生講演会(卒業生)	
229	6月8日	卒業生講演会(卒業生)	
230	6月15日	卒業生講演会(卒業生)	
231	6月22日	卒業生講演会(卒業生)	
232	6月29日	卒業生講演会(卒業生)	
233	7月6日	卒業生講演会(卒業生)	
234	7月13日	卒業生講演会(卒業生)	
235	7月20日	卒業生講演会(卒業生)	
236	7月27日	卒業生講演会(卒業生)	
237	8月3日	卒業生講演会(卒業生)	
238	8月10日	卒業生講演会(卒業生)	
239	8月17日	卒業生講演会(卒業生)	
240	8月24日	卒業生講演会(卒業生)	
241	8月31日	卒業生講演会(卒業生)	
242	9月7日	卒業生講演会(卒業生)	
243	9月14日	卒業生講演会(卒業生)	
244	9月21日	卒業生講演会(卒業生)	
245	9月28日	卒業生講演会(卒業生)	
246	10月5日	卒業生講演会(卒業生)	
247	10月12日	卒業生講演会(卒業生)	
248	10月19日	卒業生講演会(卒業生)	
249	10月26日	卒業生講演会(卒業生)	
250	11月2日	卒業生講演会(卒業生)	
251	11月9日	卒業生講演会(卒業生)	
252	11月16日	卒業生講演会(卒業生)	
253	11月23日	卒業生講演会(卒業生)	
254	11月30日	卒業生講演会(卒業生)	
255	12月7日	卒業生講演会(卒業生)	
256	12月14日	卒業生講演会(卒業生)	
257	12月21日	卒業生講演会(卒業生)	
258	12月28日	卒業生講演会(卒業生)	
259	1月4日	卒業生講演会(卒業生)	
260	1月11日	卒業生講演会(卒業生)	
261	1月18日	卒業生講演会(卒業生)	
262	1月25日	卒業生講演会(卒業生)	
263	2月1日	卒業生講演会(卒業生)	
264	2月8日	卒業生講演会(卒業生)	
265	2月15日	卒業生講演会(卒業生)	
266	2月22日	卒業生講演会(卒業生)	
267	2月29日	卒業生講演会(卒業生)	
268	3月6日	卒業生講演会(卒業生)	
269	3月13日	卒業生講演会(卒業生)	
270	3月20日	卒業生講演会(卒業生)	
271	3月27日	卒業生講演会(卒業生)	
272	4月3日	卒業生講演会(卒業生)	
273	4月10日	卒業生講演会(卒業生)	
274	4月17日	卒業生講演会(卒業生)	
275	4月24日	卒業生講演会(卒業生)	
276	4月31日	卒業生講演会(卒業生)	
277	5月8日	卒業生講演会(卒業生)	
278	5月15日	卒業生講演会(卒業生)	
279	5月22日	卒業生講演会(卒業生)	
280	5月29日	卒業生講演会(卒業生)	
281	6月5日	卒業生講演会(卒業生)	
282	6月12日	卒業生講演会(卒業生)	
283	6月19日	卒業生講演会(卒業生)	
284	6月26日	卒業生講演会(卒業生)	
285	7月3日	卒業生講演会(卒業生)	
286	7月10日	卒業生講演会(卒業生)	
287	7月17日	卒業生講演会(卒業生)	
288	7月24日	卒業生講演会(卒業生)	
289	7月31日	卒業生講演会(卒業生)	
290	8月7日	卒業生講演会(卒業生)	
291	8月14日	卒業生講演会(卒業生)	
292	8月21日	卒業生講演会(卒業生)	
293	8月28日	卒業生講演会(卒業生)	
294	9月4日	卒業生講演会(卒業生)	
295	9月11日	卒業生講演会(卒業生)	
296	9月18日	卒業生講演会(卒業生)	
297	9月25日	卒業生講演会(卒業生)	
298	10月2日	卒業生講演会(卒業生)	
299	10月9日	卒業生講演会(卒業生)	
300	10月16日	卒業生講演会(卒業生)	
301	10月23日	卒業生講演会(卒業生)	
302	10月30日	卒業生講演会(卒業生)	
303	11月6日	卒業生講演会(卒業生)	
304	11月13日	卒業生講演会(卒業生)	
305	11月20日	卒業生講演会(卒業生)	
306	11月27日	卒業生講演会(卒業生)	
307	12月4日	卒業生講演会(卒業生)	
308	12月11日	卒業生講演会(卒業生)	
309	12月18日	卒業生講演会(卒業生)	
310	12月25日	卒業生講演会(卒業生)	
311	1月1日	卒業生講演会(卒業生)	
312	1月8日	卒業生講演会(卒業生)	
313	1月15日	卒業生講演会(卒業生)	
314	1月22日	卒業生講演会(卒業生)	
315	1月29日	卒業生講演会(卒業生)	
316	2月5日	卒業生講演会(卒業生)	
317	2月12日	卒業生講演会(卒業生)	
318	2月19日	卒業生講演会(卒業生)	
319	2月26日	卒業生講演会(卒業生)	
320	3月5日	卒業生講演会(卒業生)	
321	3月12日	卒業生講演会(卒業生)	
322	3月19日	卒業生講演会(卒業生)	
323	3月26日	卒業生講演会(卒業生)	

## 中期目標に対する主な改善事項（2）

- （4）国際的視野を持つ技術者（新規）
- ・国際交流としての、専攻科生の中国短期交換留学および、海外インターンシップ



## 残された課題

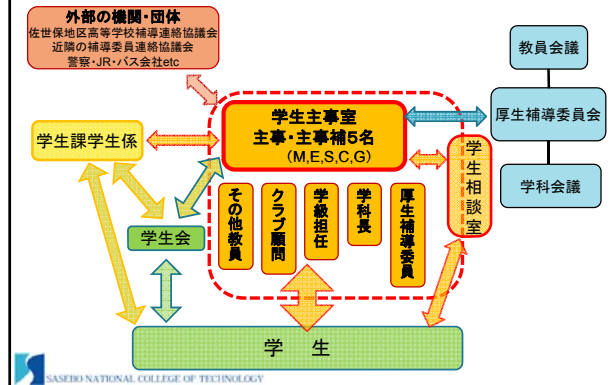
- （1）TOEICスコアの基準目標の向上
- （2）地域貢献
- ・長期インターンシップ
  - ・地域連携型の共同研究



## 学生生活について

外部評価委員会資料(学生主事)

### 1. 学生生活に関する指導・支援体制



### 2. 学校行事(学生主事室関連分)

- 4月 新入生オリエンテーション(青少年の天地, 1泊2日)  
開校記念日(遠足, 学科毎の新入生歓迎行事)
- 5月 体育祭
- 6月 高総体(長崎県, 九州地区大会), 交通安全講習会
- 7月 九州沖縄地区高専体育大会
- 8月 全国高専体育大会, 夏季合宿
- 9月 球技大会, 学生会長選挙
- 10月 リーダー研修会
- 11月 高専祭(文化祭)
- 12月 球技大会, 冬季合宿
- 1月 交通安全講習会
- 3月 春季合宿

### 新入生オリエンテーション

佐世保青少年の天地(H20.4.20-21)



### 体育祭(H20.5.18)



### 九州地区高専体育大会

(H20.7.12,13,18-20, 11.15-18)



### リーダー研修会 (H20.10.4)



### 高専祭 (H20.11.8,9)



### その他の行事から

開校記念日、遠足時の新入生歓迎行事(雨天のため体育館で実施, H20.4.23)



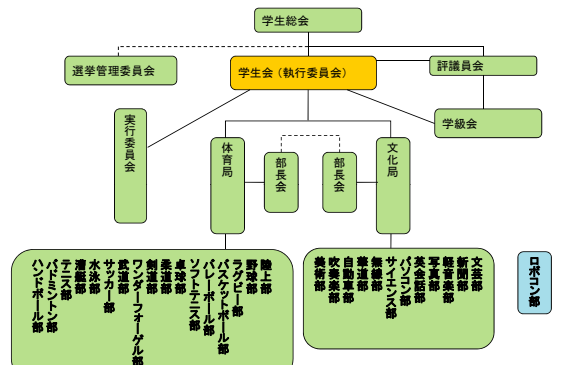
長崎県高専総体総合開会式 (H20.5.30)



球技大会 (H20.12.18)



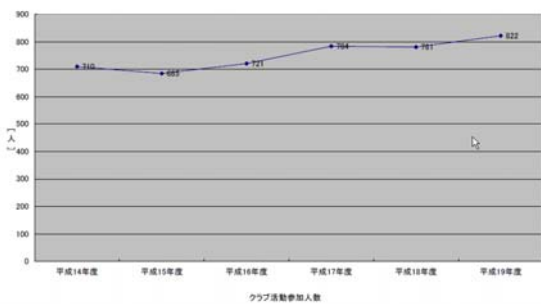
### 3. 学生会組織



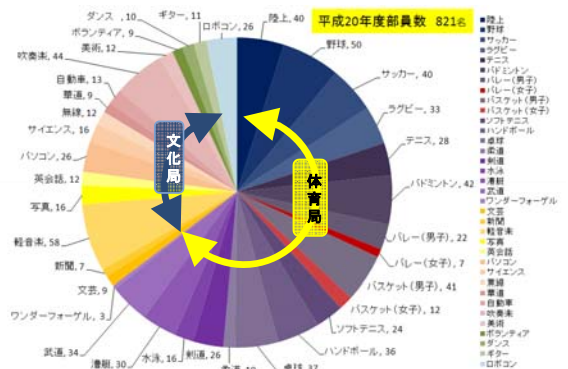
クラブ数: 体育局17(19), 文化局12 +1

### 4. 課外活動

学生会会則第43条 会員は必ず1つないし2つの部に所属しなければならない。...



### 各部への入部状況





### その他学生指導

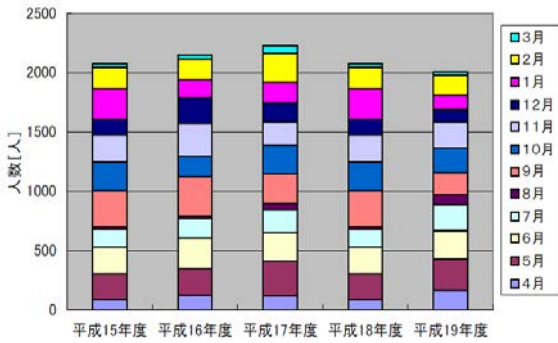
- ◆ 登校時の校門指導  
挨拶運動, 身なり指導,  
無許可車両通学のチェック
- ◆ 朝および昼の巡回  
学生主事補と厚生補導委員で, 校内および学校周辺を巡回)
- ◆ 公共交通機関(JRなど)での乗車指導  
佐世保地区高等学校補導連絡協議会で, H19・20年度の重点指導項目
- ◆ 交通安全講習会の実施  
学生(特に車両通学許可者)に対する交通安全教育
- ◆ 外部講師を招いて各種講演会  
制服の着こなし(1年生対象:H20.5.7)  
タバコの害(1年生対象:H20.5.28)  
薬物乱用防止(2年生対象:H20.6.18)  
消費者教育(5年生対象:H21.2.19)



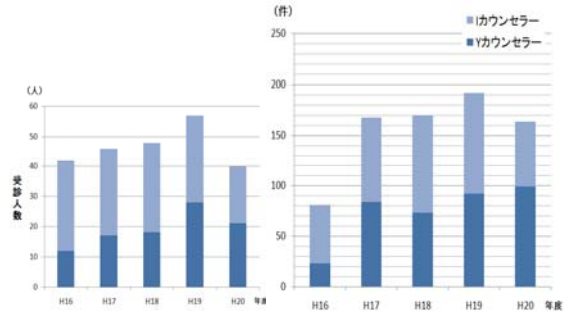
### 6. 学生支援

- ◆ 学生相談(学生相談室)
  - 構成  
学生相談室長 1名  
相談員6名(各学科から1名, 保健室の看護師)
  - 外部カウンセラー  
2名体制(原則として, 1名は月1回, 1名は月2回来校)
  - 運用体制  
保健室が窓口になり, 学生の相談に対応
- ◆ 奨学支援(学生係)  
授業料免除, 奨学金関係の業務を担当

保健室利用状況(月別)

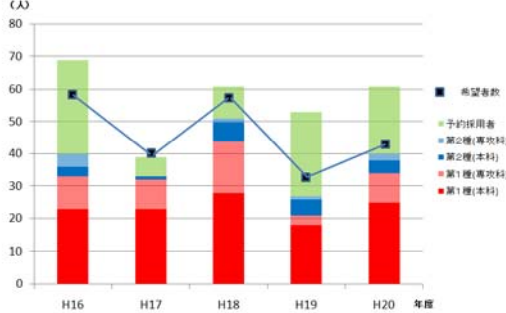


カウンセリングの受診人数と受診件数(H16-H20)

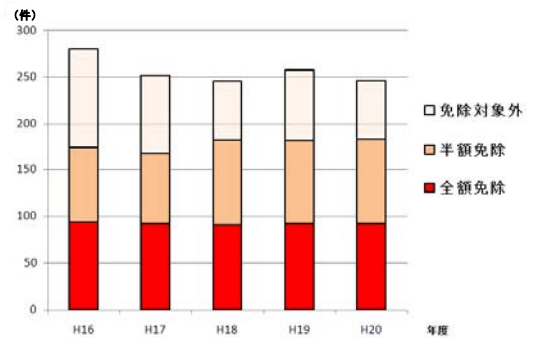


奨学生採用状況(H16-H20)

(日本育英会, 学生支援機構)



授業料免除の状況(H16-H20)



## 学生の寮生活について



## 学寮の役割

### 1. 生活支援

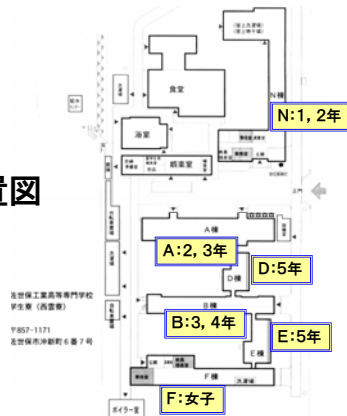
- ★通学の利便性 学習・課外活動時間の確保
- ★生活費軽減 下宿の半額

### 2. 生活指導, 教育支援

- ★規則正しい生活習慣 日課, マナー
- ★自主自立と協調性 2, 3人部屋
- ★当直教員, 指導寮生の支援 面談, 寺小屋

## 概要

### 配置図



## 概要

- ★男子1, 2年 …… 全寮制, 入寮免除有(30%程)
- ★男子3年以上&女子 …… 希望者
- ★部屋割: 1・2年-3人, 3・4年-2~3人, 5年-1人



## 中期計画

- 1) パソコン室の充実, 教養図書等の充実
- 2) 各居室、共用部分を常時点検改善
- 3) 寮生アンケート実施
- 4) 寮母の確保
- 5) 行事、規則、寮生指導のあり方の見直し

## 日課

起床	7:20
点呼	朝 7:20 1, 2年生集団課業(ラジオ体操)
	夕 20:30
食事	朝 7:25~ 8:30
	昼 12:20~13:05 夕 18:00~19:30
自習 静粛自習時間	20:30~23:30 21:00~23:00 (静粛自習時間帯は他室訪問禁止)
消灯	1, 2年 23:30
	3年以上 24:00

## 日 課

- ★ 点呼は5分前行動を実践
- ★ 1, 2年生の集団課業(ラジオ体操)も遅れることなく実施



朝点呼(上級生)



ラジオ体操(下級生)

## 寮 費 (月 額)

項目	金額(円)	備考	備考
寄宿料	700	個室	部屋代
	800		
寮費	6,500	1, 2年生 3年以上	光熱水道料 風呂, 暖房 乾燥機他
	7,000		
食費	26,580	30日分	886円/1日
月額合計	33,780	1, 2年生 3年以上	
	34,280		

## 寮 生 数

平成20年度

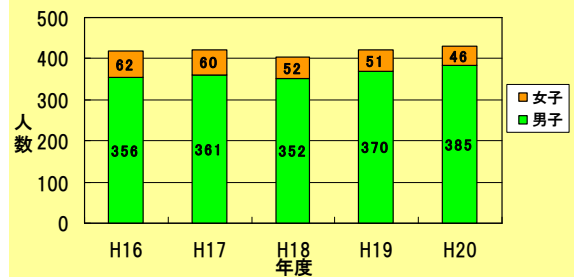
	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計	定員
男	107	84	82	67	45	0	385	390
女	12	9	9	10	6	0	46	80
計	119	93	91	77	51	0	431	470

入寮率	男	98.7%
	女	57.5%
	全体	91.7%

男子の入寮希望者が  
50~70名ほど超過

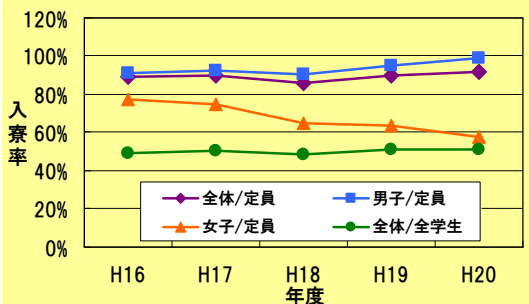
## 年度別寮生数

年度初めの入寮者数

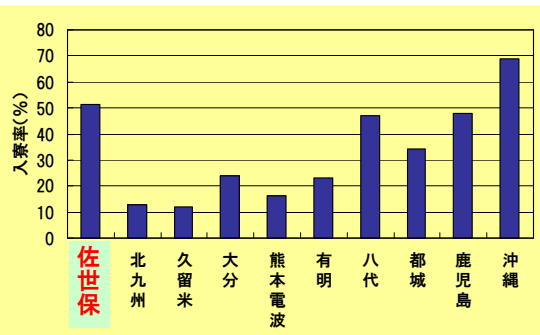


## 入 寮 率

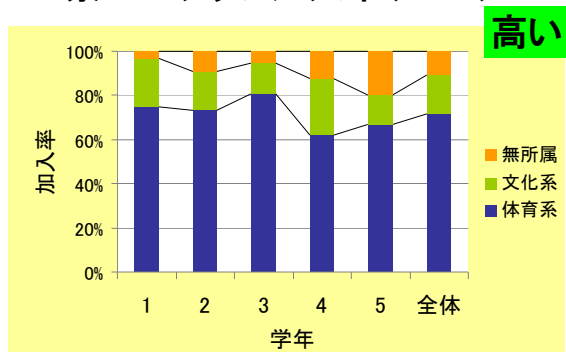
年度初めの入寮率



## 九州地区各高専入寮率(全体)



## 寮生のクラブ加入率(H20)



## 教職員の支援体制

- ★寮務教員 … 7名
- ★事務 … 2名(係長, 事務補佐員:施設整備)
- ★寮母 … 2名(男女棟に各1名), 21時まで勤務
- ★毎日2名の教員が宿直して指導(休日は1名日直)
- ★教員2名による朝, 昼, 夕食の検食
- ★教員の朝・昼居室巡回 … 遅刻, 病人の把握  
居室点検
- ★夜の居室巡回 … 勉学指導, カウンセリング

## 寮生会

- ★寮生会役員(57名)による運営  
寮長, 副寮長, 棟長(6), 階長(19)  
階長補佐(7), 指導寮生(23)
- ★1, 2年生の点呼立会い
- ★生活・勉学指導
- ★寮祭等の行事企画・実行

## 施設



## 施設



## 施設



## 行事



保護者への入寮説明会



火災避難訓練(4月)



寮祭(4月, 2月)



一斉清掃(5月, 11月)

## 行事



部屋替(6,9,3月)



夏祭り(H17~中国廈門研修生受入れ)



学寮講演会



近隣幼稚園節分イベント(H17~)

## 安全対策



入口防犯カメラ(7カ所)



女子棟防犯装置



寮生用金庫



学寮入口駐車対策(H20)

4カ所設置

## 施設改善



男子玄関ロビー(H17)



女子談話室(H17)



駐輪場(H20)



B棟トイレ(H20)

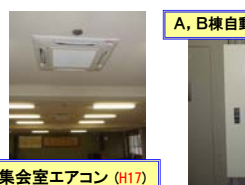
## 施設改善



大型製水器(H19)



女子棟冷蔵庫(H19)



集会室エアコン(H17)



A, B棟自動消灯装置(H19)

意見箱3台(H20)

## 居室改修

フローリング



改修前



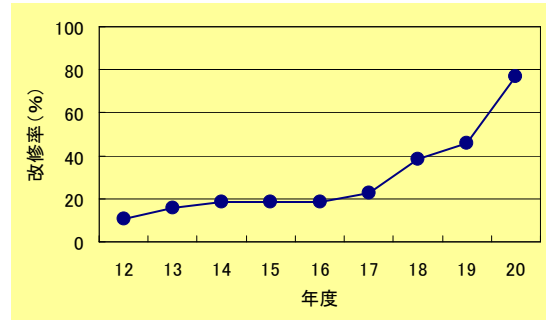
改修後



## 居室改修

年度	棟・階	予算	改修率
H12	A棟1階(6室)	校費	10.7%
	N棟1階(2室)		
H13	B棟1階(11室)	営繕	15.6%
H14	A棟1階(6室)	校費	18.3%
H17	D棟1階(7室)	校費	22.8%
	E棟1階(3室)		
H18	D棟2階(7室)	営繕	35.3%
	E棟1～3階(21室)		
	A棟2階(7室)		
H19	A棟2階(5室)	校費	40.6%
	A棟3階(12室)	営繕	46.0%
H20	D棟3階(7室)	校費	49.1%
	N棟1～5階(62室)床のみ	緊急営繕	76.8%

## 居室改修



## ベッド等更新

更新前

長さ1.8 m



更新後

2 m



H19 二段ベッド(6)

H20 二段ベッド(54), シングルベッド(64)  
洋服タンス(160), 机(124), イス(276)

## パソコン室の整備

年度	男子用	女子用
H17	1台更新	3台更新
H19	1台更新	1台更新
H20	4台更新	1台更新
設置数	8台	6台

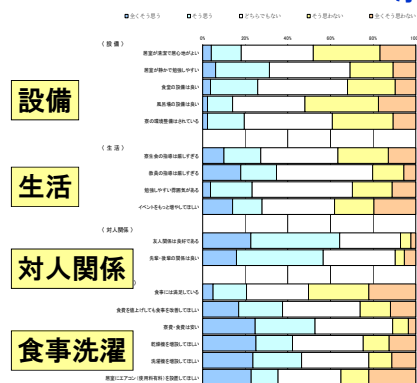
- ・多くの寮生がパソコン保有
- ・パソコン室は主としてインターネット利用
- ・古いパソコンの更新を実施
- ・情報コンセント設置

## 寮内図書



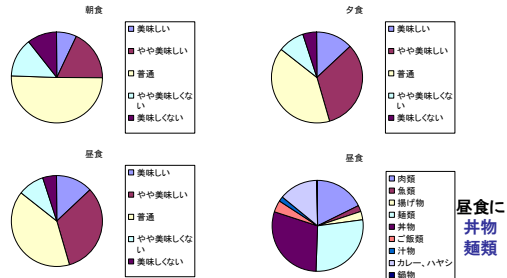
2500冊の図書  
(H19.3月退職教員 500冊寄贈)

## 全寮生アンケート 毎年実施



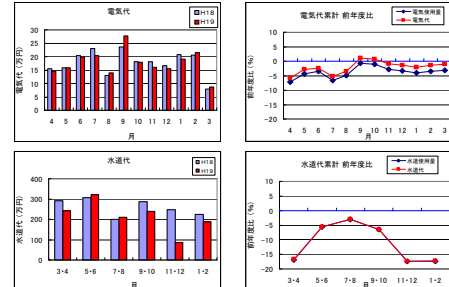
## 食事アンケート

年2回全寮生の食事アンケートをとり、食堂業者を含めた食事委員会を開催し、改善実施。



## 節電節水への取り組み

毎月の電気・水道・ガス・重油等使用実績を掲示し、省エネ活動推進 約5%の節減



## 学寮改善への取り組み

- ★寮生アンケート … 年1回 生活全般
- ★教員アンケート … 年1回 宿日直および学寮全般
- ★食事アンケート … 年2回 食堂委託業者と協議  
全教員による30分前の検食
- ★各行事終了後アンケート … 寮生会が実施
- ★寮内設置の意見箱 … 3個設置
- ★寮生会と寮務主事室との合同会議 … 月2回
- ★寮生会役員と寮務教員による他高専視察 … 年1回
- ★西雲寮便り … 年2回 寮生および保護者に配布
- ★ホームページ … 寮生会と共同で作成

## 今後の課題

- ★居室改修 … B棟(26室), 女子棟(26室)
- ★トイレ改修 … N棟, A棟, F棟 (B, D, E棟済)
- ★イス更新 … 194脚
- ★全居室エアコン設置(224室)  
夏: 現在扇風機のみ  
冬: スチーム暖房だが配管・機器が老朽化し故障頻発
- ★男子居室不足解消 … 新棟
- ★事務職員2名, 寮母2名の確保
- ★学寮受付インターホンシステムの導入
- ★盗難(4, 5件/年), 寮生間トラブル(2, 3件/年)



## 地域連携及び 産学官交流について

総合技術教育研究センター

## 設置の基本指針

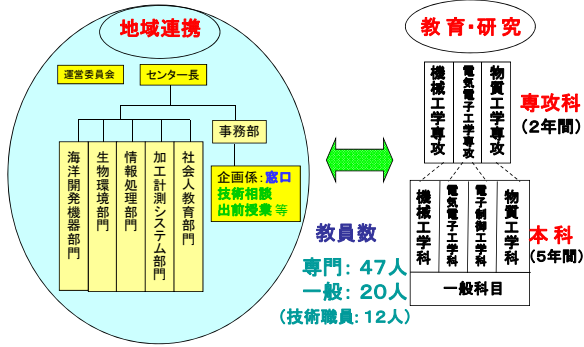
学生の教育という基本的使命に次ぐ第2の使命である  
「産学官連携」を押し進める。⇒「人材育成」、「技術振興」

- i) 『地域に密着した産学官連携』の拠点である。
- ii) 地域ニーズ対応型の産学官連携研究を推進する。
- iii) 国際的技術競争力を持つ企業の創出に寄与することに務める。
- iv) 研究活動推進のプロセスとその成果を、常に学生の教育に還元することに務める。
- v) 連携活動を通じて、互いの特質を補完した人材教育の仕組みを構築する。
- vi) 学生に創意工夫の意欲付けを行うための実践的かつ創造的技術者教育を行う。

「地域社会の発展と高度化」に寄与

## 佐世保工業高等専門学校

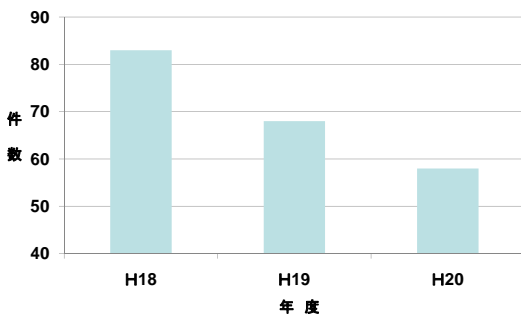
### 総合技術教育研究センター



## 地域社会との連携・協力

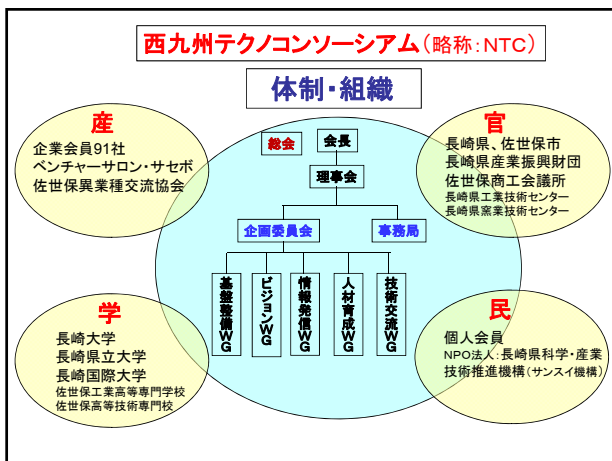
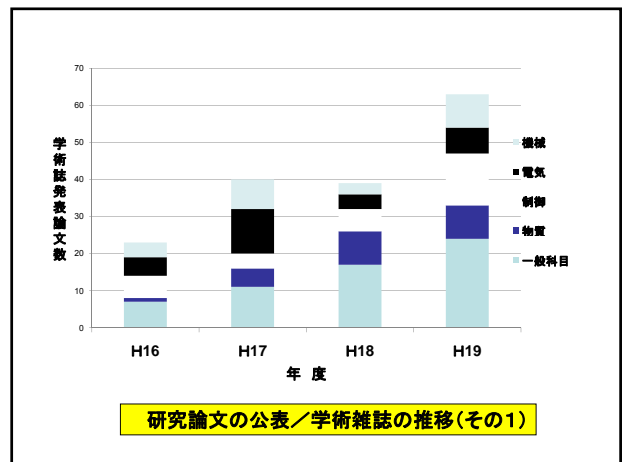
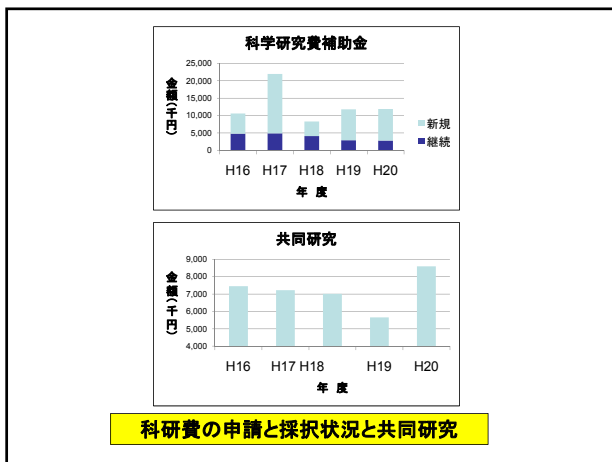
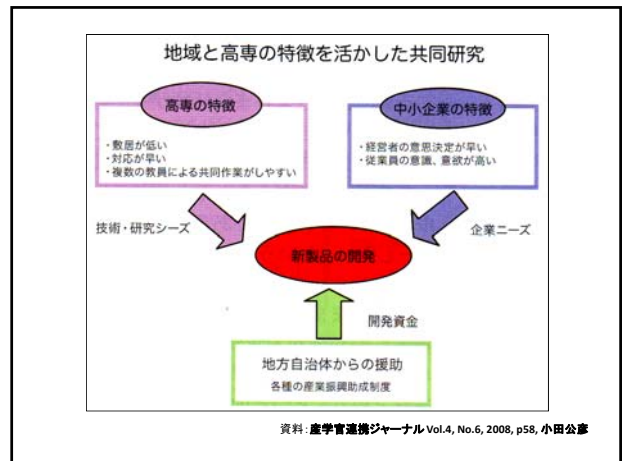
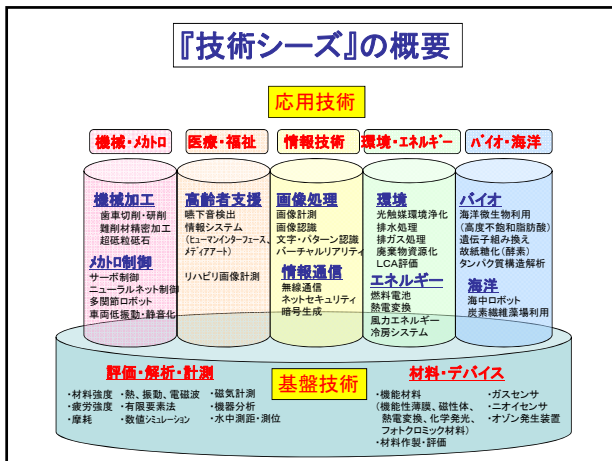


## 地域活動(出前授業等)



地域社会との連携・協力

年度	実施内容	対象	担当	
平成20年度【公開講座】	おもしろ化学実験	佐世保市内及び近郊地域の小中学生		
	おもしろパソコン＆ロボコン教室	佐世保市内及び近郊地域の小中学生、中学生		
	中学生のための「楽しい環境教室」	佐世保市内及び近郊地域の中学生		
	親子で楽しむ工作教室	小学生と保護者		
	出張授業「パソコンを使った電子工作」	近郊地域中学生		
	平成20年度【一般公開講座】	英語書道講座	近郊地域の一般市民	
		親子科学のふし工作教室	小学生と保護者	
		親子科学のふし工作教室	小学生と保護者	
		親子科学のふし工作教室	小学生と保護者	
		親子科学のふし工作教室	小学生と保護者	
親子科学のふし工作教室		小学生と保護者		
親子科学のふし工作教室		小学生と保護者		
親子科学のふし工作教室		小学生と保護者		
親子科学のふし工作教室		小学生と保護者		
親子科学のふし工作教室		小学生と保護者		
平成20年度【出前・出講・開放講座・協力事業】	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	
	公開講座	近郊地域中学生	近郊地域中学生	



- ### NTCと連携した人材育成事業
- 1) 経済産業省:「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業:造船関連産業における複合型生産技術者の育成(平成18、19年度)」  
【 8講座 6コース 定員 260名 】
  - 2) 長崎県地域企業立地促進等事業補助金:平成20年度人材養成支援事業「技術者育成事業」  
【 7講座 12コース 定員 254名 】
  - 3) 平成20年度佐世保市人材育成委託事業:「技術向上のための教育プログラム」  
【 4講座 4コース 定員:55名 】
  - 4) 国立高専機構:平成20年度企業技術者等活用プログラム「企業の匠に学ぶものづくりの知恵」  
【 本科・専攻科 全学科・全学年の授業、講演、卒研指導等 】

平成20年度 佐世保市人材育成委託事業

## 受講生募集

◎ 優れた個人指導を受けた少人数教育  
 ◎ 企業による産学形式の産学連携実習  
 ◎ 社内教育で得る負荷の軽減

※産学連携による産学連携推進活動の推進に資するためです。

実施年度	実施機関	実施期間	募集人数	募集要項
2008年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2009年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2010年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2011年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2012年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2013年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2014年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2015年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2016年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2017年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2018年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2019年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項
2020年度	佐世保市立佐世保高等学校	10月1日～12月31日	10名	募集要項

◎ 募集要項: 募集要項  
 ◎ 募集要項: 募集要項  
 ◎ 募集要項: 募集要項

◎ 募集要項: 募集要項  
 ◎ 募集要項: 募集要項  
 ◎ 募集要項: 募集要項

『技術向上のための教育プログラム委託事業』

### 科学技術による地域活性化 1. 現状

**地域科学技術施策の成果**

**知的クラスター創成事業**

- 特許出願件数2,230件
- 事業化件数803件

**産業クラスター計画**

- 4万件の新事業創出
- 800件の創業
- クラスター参加企業1社当たり平均売上高の増加 (H12年度:32億円→H17年度:36億円)

**地域科学技術クラスター連携施策群**

- 8府省17施策の連携強化

**課題** 一定の成果を上げてはいるが

- ① 試作した技術を事業化する主体が地域内に存在しない。
- ② 開発した先進的な技術の市場が開拓できない。
- ③ 地域科学技術施策の相乗効果が発揮されていない。

**人 社**

- 優秀なコーディネーター人材の不足
- 研究・開発人材の不足(流出)

**大学等の産学官連携**

- 大学の産学官連携機能が弱い
- イノベーション創出拠点形成が不十分
- 事業化支援策が不十分

**内外とのつながり力**

- 組織の枠を超えた地域内連携が不十分
- 地域を超えた広域連携が不十分

**地域マネジメント**

- 大学、企業など、地域としての統一ビジョンがない

**金融機関**

**研究機関**

12

内閣府

第7回産学官連携推進会議 講演資料 平成20年6月14日

### これからの課題

佐世保高専の産学官民連携と地域連携活動は、西九州テクノソシアムの設置以来、「人材育成」と「技術振興」を2本柱に順調に推移してきた。今後、更なる発展のためには、

**1. 人材育成教育プログラム(スキル)の開発**

**2. 「地域協同テクノセンター」の設置**

↓

「地域経済の牽引役」である優れた「中小企業の育成」

新たな地域イノベーション創出の「場」

↓

「地域社会の発展と高度化」に寄与

## 広報活動について

担当 広報委員会

### 【評価項目】

#### (A) ホームページの件

ホームページを重要かつ公式情報発信源と位置づけ、随時見直しを行い、提供する情報密度の向上と全体のバランス、デザイン感覚の重視など質の向上を図る。

#### (B) 広報印刷物および広報ビデオの件

広報関係印刷物、広報ビデオの見直しを随時行い、内容を充実させ、活性化、個性化を図る。

#### (C) 広報イベント: おもしろ実験大公開

【自己評価】: ○

#### (A) ホームページの件

平成19年5月からホームページ(HP)のリニューアルに着手し、平成20年10月1日にリニューアルを完了した。

##### 新HPの主な改善点

- (1) トップページの改善
- (2) 閲覧者の離脱を防止するため、3階層以内に情報をまとめた。
- (3) 更新・管理の利便性向上を図るため、各係の担当者が入力しやすいプログシステム(ムーバブルタイプ)を導入。

#### (1) トップページ

『見やすいトップページ』にすることに主眼を置いて、

① 文字情報に加えて映像情報を取り入れたデザインとする。

② 項目の整理、配置換え、追加を行う。

これにより、閲覧者の直帰率が55%(一般に70%)と減少した。



### 今後の検討課題

- ・ 専攻科のHPの内容を充実させる。
- ・ 各学科のHPのフォーマットの統一化や、より一層の内容の充実化を検討する。
- ・ 学外、学内の閲覧者からの要望をもとに、随時改善を行う。

#### (B) 広報印刷物および広報ビデオの件

##### (i) 広報印刷物

- 学校要覧
- 沖新通信

##### (ii) 広報ビデオ

## (i) 広報印刷物

### 「学校要覧」

佐世保高専の全容を紹介したもので、教育理念、目標、組織、施設、教育・研究、地域連携、国際交流等を掲載したものである。



各年度毎に変更箇所を修正、記事の見やすさの工夫を行うと共に、今後ますます重要視されていく地域連携や国際交流活動状況などの紹介も新たに加え、記事内容の充実を図ってきた。

### 「沖新通信」

単年度で3回発行するもので(年度当初、年度半ば、年度末)、記事の主な内容は、年度当初は入学、年度半ばは学術交流・地域連携、年度末は卒業、にそれぞれ関連したニュースを掲載したものである。



各年度の教育活動現場の状況を報道することが主眼であることから、出来るだけ学生の生の声の記事を増やし、活気溢れる、読者の興味をそそる内容のものとなるよう努めてきた。

## (ii) 広報ビデオ

懸案となっていた新しい広報ビデオの制作に、平成18年4月から取り組み、平成19年8月に完成した。制作は業者委託によらず、取材・編集・ナレーションに至るすべてが学生の制作によるものである。

**内容:** 各学科、専攻科の紹介から、クラブ活動、各種教育施設の紹介をはじめ、新しい話題のロボコンや地域連携活動なども取り入れた内容となっており、本校の教育・研究活動がよく網羅されたものとなっている。

### 【今後の課題】

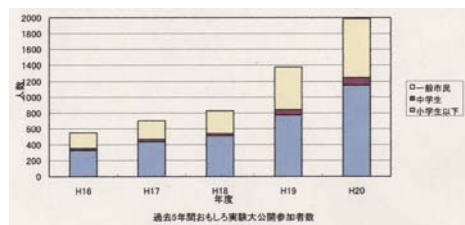
教育施設や教育方針の変更、あるいはビデオ映像に登場する教員の退職や転職等に伴い、広報ビデオも随時更新していく必要がある。

## (c) 広報イベント:おもしろ実験大公開

このイベントは、平成8年度から実施。当初は子供の理科離れ防止を主眼にしたものであった。最近は恒例のイベントとして地域に定着。本校の大きな広報活動の一つとして毎年10月に開催されている。対象は主に小学生と一般市民である。



## 過去5年間の来場者数



年々増加していく来場者数に対応していくために、これまで以上の出展テーマ数の増加とこれに伴う予算面の問題、並びに来場者に対応する本校の教職員と学生の増員等の問題が今後の検討課題である。